周西歩く　三舟登る　野の花咲く小路　四季彩る花麗し

周西・三舟
花紀行

～付録　周西地域ガイドマップ～

君津市文化のまちづくり市税1％支援事業

周西の自然と歴史文化の伝承

周西マップクラブ

『周西・三舟 花紀行』発刊によせて

周西マップクラブ
顧問　服　部　喜　光

「周西・三舟 花紀行」発刊おめでとうございます。君津市文化のまちづくり市税１％支援事業に「周西の自然と歴史文化の伝承」として応募し採択され、見事に目標達成されました。これも一重に「周西マップクラブ会員」皆さまの努力の賜物であります。

私の植物に対する知識は、学生時代に専攻した生物の授業で知った生物学者「カール・フォン・リンネ」です。彼は、動植物の情報を整理し分類表（「界」「門」「綱」「目」「科」「属」「種」）を作り、生物分類を体系化しました。「分類学の父」と称される人だった。と記憶しています。その後、植物にはほとんど無縁の私がこのような関わりをもつようになるとは、奇遇です。これも「周西マップクラブ」との出会いがご縁でしょう。

採択事業のほとんどは、事前に収集、記録したデータをもとに編纂したと聞いています。周西や三舟地域で自然に生育する野の花を取材されデジカメに撮りためた画像は、数千枚を数えるそうです。野の花の名前の同定に関する意見交換で「科名」を聴くにつけ、図鑑で調べた内容報告などを見るにつけ、学生時代に学んだ薄識が脳裏にかすかな記憶として甦りました。

真剣な取り組みが新たなアイディアを生み、見直し、作り直しを繰り返した工夫の成果が『周西・三舟 花紀行』として見事に結実しています。また、これまでの知見や古老からの聞き取り調査をもとに行った情報収集から、地域の歴史や風習、行事などを学び記録した資料をもとに「手づくりマップ」を作成し、健康つくりにも一役買う工夫もみられます。さらに、君津市域の発展を振り返る資料として地域の人達に古い写真の提供を呼び掛け、時代をアーカイブする「リレー写真展示会」を市内公共施設を中心に実施されています。参観された多くの方々から、昔を辿る縁として好評を頂いていると伺っています。

今回の「周西マップクラブ」が取り組んだ１％事業は、企画・内容ともに素晴らしく、地域文化を愛しＰＲする「まちおこし」にふさわしいモデル事業として高く評価されるべきです。生涯学習の模範として「周西マップクラブ」の活動を大いに評価し敬意を表するとともに、今後の躍進を期待するものであります。

周西の素晴らしさ、再発見

平成２４年８月
周西公民館長　玉川幹雄

この周西の地には、なんと美しい花々が咲いていることでしょう。四季折々、線路わきの空き地に、公園の中庭に、住宅街の道端に、三舟山の山頂に、小糸川の川岸に、たくさんの花々が咲いています。

周西マップクラブが発刊した『周西・三舟 花紀行』を読ませていただきました。まず、その美しい出来栄えに驚きました。この周西マップクラブは、公民館の「パソコンサークル」が母体になって発展してきたそうです。パソコンの学習をすすめるなかで、様々な機器を活用しながら、７年間をかけて撮りためた画像をまとめたものが、この『周西・三舟 花紀行』だそうです。素晴らしい出来栄えです。

しかし、もっと驚いたことがたくさんあります。それは、これが単なる花の写真集ではないということです。

この写真集には、会員のたくさんの文がのせてあります。その文から、会員の気持ちがひしひしと伝わってきます。“咲いてくれてありがとう”からは、珍しい花に出会えた喜びが伝わってきます。花の名前のいわれもたくさん調べてあります。また、地域の歴史を調べて紹介してあります。これらは図書や文献を活用した、学習の成果だと思います。

また、ところどころに、花に因んだ詩、万葉集からの引用、歴史がのせてあり、参加者の学習の意欲と、花に出会えた喜びが感じられます。パソコンの学習のみならず、この『周西・三舟 花紀行』の発刊によって、会員の学習の幅が大いに広がりつつあるようです。

さて、この『周西・三舟 花紀行』の発刊は、公民館活動を地域に還元するという、非常に大きな意味を持っているように思います。生涯学習社会は、一人ひとりの学習の成果が社会全体に還元され、それが市民の生きがいになって、社会全体が向上していく社会です。公民館活動から始まった学習が、大きく市民の中にひろがり、更に発展していく社会です。このような意味で、『周西・三舟 花紀行』の発刊は、誠に意義深いものであると考えます。

今回の『周西・三舟 花紀行』の発刊をスタートにして、更なる学習の発展が大いに期待されるところです。周西マップクラブの皆様の学習と御努力に、心より深い敬意を表したいと思います。

『周西・三舟 花紀行』の発刊、誠におめでとうございます。

はじめに

周西マップクラブ
会長　元　岡　陸　視

君津市は市制４０周年の歩みとともに、従来の農業型土地利用から工業型土地利用へと大きく変貌を遂げてきました。私たちが生活する周西地域も土地区画整理事業により湾岸・山地・田畑は、商工業圏や住宅圏、教育施設など、都市化に向けた開発が進み、昔日の面影が時代とともに薄れつつあります。

「周西マップクラブ」は、周西公民館の開館（平成１８年５月１４日）と同時に活動を開始した「パソコンサークル」が母体です。会員１３名で活動しています。中級程度のＩＴ技術習熟後、次は何を目標に活動するか模索検討した結果、“これまで培い習得したチョッピリの生涯学習力を地域に還元する活動に取り組む”ことを新たな活動指針としました。

策定した活動指針６項目の中から、平成２４年度「君津市文化のまちづくり市税１％支援事業」に「周西の自然と歴史文化の伝承」を応募し採択されました。『周西・三舟 花紀行』（以降、花紀行）は、過去７年間撮り溜めてきた周西公民館地域（以降、周西）と三舟山地域（以降、三舟）に生育する山野草を紀行集風にまとめ、地域の自然を知る野の花観察ハンドブック。付録「周西地域ガイドマップ」(以降、ガイドマップ）は、地域を身近に感じ健康ウォークの参考に活用して頂くことが目的です。

これまで、周西・三舟を歩き生育確認した野花は約３５０種類を数え、その中から２８４種類を取上げています。中には、以前見たことがあるのに最近見られなくなったものや、絶滅が危惧されているものなどの発見もありました。また、付録「ガイドマップ」は、周西公民館主催事業「地域再発見教室」で学んだ情報などをもとに全員で歩き、『君津市史』や参考文献、有識者の知見、ご指導のもとに作成しました。

事業を進めていく過程で思わぬ展開がありました。小冊子が、ＮＰＯ法人自然観察大学講師 川名興氏の目にとまり、これがご縁で、千葉県立中央博物館植物学研究科主任上席研究員 天野誠氏を紹介され監修をお引き受けして下さることになりました。地域に残る自然を紹介したい。そんな素朴な発想が、花の同定方法、名前、分布表示方法など、植物学の初歩的なご指導・アドバイスを頂き、思考錯誤の末、お陰さまで質の高い本の発刊を目指すことになりました。

君津市文化のまちづくり市税１％支援事業採択概要

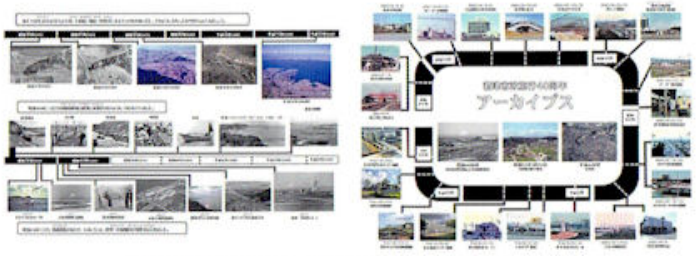
１．事業名称　　周西の自然と歴史文化の伝承
２．団体の名称　周西マップクラブ
３．事業の目的、効果、具体的な内容

＜目的＞
１）周西地域と三舟地域の草花を撮影し、生育状況を記録。
２）周西地域のＰＲ用ガイドマップを作成。
３）消滅しつつある古い写真を収集し展示紹介。

＜効果＞
１）平地、里山で咲く草花の観察基礎データとしての植物学的な価値。
２）文化・風習・祭りの情報提供で地域活性化が図られると共に、ウォーキングによる健康増進。
３）収集写真の保存、保管と有効活用。

＜事業の具体的な内容＞
１）『周西・三舟　花紀行』の発刊。（Ａ４版横　88頁）
２）『周西地域ガイドマップ』の作成。（Ａ３版裏表１枚折り込み）
３）市内公共施設で、リレー写真展示会の開催。

※敬称略



周西地域50年の変遷・アーカイブスパネル
＜写真提供：新日鐵住金（株）君津製鉄所・石渡金衛門＞

湖底に沈む亀山村落
＜写真提供：渡辺忠純＞

北子安坂付近・SL　C57
＜写真提供：高瀬一利＞

幻の伊八彫刻・人見神社
＜写真提供：高瀬一利＞

周西・三舟 花紀行　目次

序　周西の素晴らしさ　はじめに　君津市文化のまちづくり市税１％支援事業採択概要　目次

第Ⅰ章　周西地域 …… 1
1．周西の早春 …… 2～5
春の音がする…／みつけたよ!!
ジロボウさんに会いました
2．周西の春 …… 6～23
本名輪遺跡公園で
スミレが咲く頃／萌えいずる春
道端に咲く花／古道を歩く
綿毛になって飛んでいく／雑草のように！
カラスとスズメ／坂田の寺家坂
野原の中で／卯の花の匂う垣根に
人見山で／クローバーの思い出
人見大通りで／小糸川の菜の花
ハルジオン／藤の花見
3．周西の初夏 …… 24～29
足元で咲く小さな花／周西公民館にて
トキワツユクサ／いつ咲くの？
4．周西の夏 …… 30～38
夏の余白／大堰の自然
開発進む中で「ハンゲショウ」が……
夏の日の風景／真夏の夜の饗宴
たかが雑草、されど雑草／似ているでしょう！
5．周西の秋 …… 39～45
線路沿いで／秋の七草
みんな豆の花／蓼食う虫も
神輿草／秋の実の時
6．周西の晩秋 …… 46

第Ⅱ章　三舟の地域 …… 47
1．三舟の春 …… 48～57
新緑のころ／小鳥のさえずりとともに
山頂の小道行く／スミレの季節
在来種の里／野いちごの仲間
遠足は楽しい／れんげ草の思い出
キンランとギンラン
2．三舟の夏 …… 58～61
オカトラノオ／一期一会の花
コマツナギ
3．三舟の秋 …… 62～76
抜き足、差し足…
棚田で見かける花／秋の空へ飛び立つ
ツリフネソウ／錦秋に向かって
里山は不思議ですね
棚田撮影会で／草花に優しく向き合う
里山を歩く／赤い実になる
野菊の仲間／秋から冬へ
ツチグリを見つけた／冬の訪れ
索引 …… 77～78
千葉県、君津市、周西・三舟地域紹介地図 …… 79
あとがき …… 80
編集・監修・編集協力・写真提供・引用参考文献 …… 81
付録　周西地域ガイドマップ　～てっくてっく健康ウォーク～

第Ⅰ章　周西の地域

川と丘陵に囲まれた閑静な町　人見地区

新日鐵住金工場群

周西は、北に東京湾、内陸中央部に大和田、坂田の丘陵、南に小糸川が流れる地帯に立地した、海と丘陵と川に囲まれた気候温暖で風光明媚な地域です。

新日本製鐵住金(株)が進出する前は、漁業・農業を中心に栄えたまちでした。その後、人口の急激な増加により都市計画が策定され、土地区画整理事業や環境・インフラ整備が着々と進みました。市政施行40周年を迎えた今日、周西地域は君津市の中心部として大きく発展を遂げています。

この冊子で取り上げる「周西」の範囲は、周西公民館区域です。都市化の波に呑まれながら風雪に耐え、可憐に、そしてひっそりと生育している「草花観察紀行」を紹介します。

小糸川河口　人見湾岸地区

新日鐵住金大和田団地　大和田地区

君津駅北口周辺　坂田商業地区

周西の早春

ウメ（梅）　バラ科 2月 ※全域

厳しい寒さが続いた冬も明け、人見神社の梅のつぼみがふくらみ赤い花が咲き始める頃、周西に春が訪れます。人見神社の大鳥居をくぐった所に、雪中庵蓼太の句碑があります。句碑には、「この神の　光分けてや　稲の露」と刻まれています。

意味は、この有難い人見神社の加護を受け、稲の出来もよく、まるで神様から光を分けてもらっているかのように、稲の葉についた露が朝日を受け、キラキラ光っている。そんな様子を詠んだ句のようです。

句碑の裏面には「不朽者（くちざるもの）　徳乎（とっか）　句乎（くか）　名乎（なか）　石乎（いしか）」とあります。句碑の建立者、一燈が謙遜の気持ちを洒落て文句に表したようです。石段を一歩一歩踏みしめ往時を偲んで下さい。

妙見大菩薩のお使い亀

雪中庵蓼太の句碑

ヒメオドリコソウ

春の音がする・・・

ビバルディー作曲　四季「春」。バイオリンの音色が水ぬるむ里を心地よい響で包み込むと、これを合図に、山野のツクシ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウなどの野花たちが、先を争うかのように咲き始めます。

ひとつふたつ。花を見つけては写真を撮り、草むらにソ～ッと寝転がる。眼を閉じると瞳に温かな春の光を受け、暫くまどろむ。透きとおった弦のリズムが眠りを呼びさまし、頬をなでるように通り過ぎていきました。

ヒメオドリコソウ（姫踊子草）　シソ科 3月 ※周西
坂田の学校に沿った山道で、群生が見られます。
“キオツケ！レイッ！”子供たちが並んでいるように見えます。

フキノトウ（蕗の薹）
キク科 3月 ※全域
フキノトウはフキの花です。春を代表する山菜ですが、めっきり姿を見なくなりました。雄花は黄白色、雌花は白色をしています。

ツクシ（土筆）
トクサ科 3月 ※周西・小香の棚田
ツクシはスギナの胞子茎です。

つくしんぼ　水面にうつり　春うらら
～なずな～

ホトケノザ（仏の座）
シソ科 3月 ※周西・小香の棚田

春の野は　ひねもすのたり　ほとけのざ
～無我～

イヌノフグリ（犬の陰嚢）
ゴマノハグサ科 4月 ※人見・坂田
在来種で、花の大きさは3mm程です。

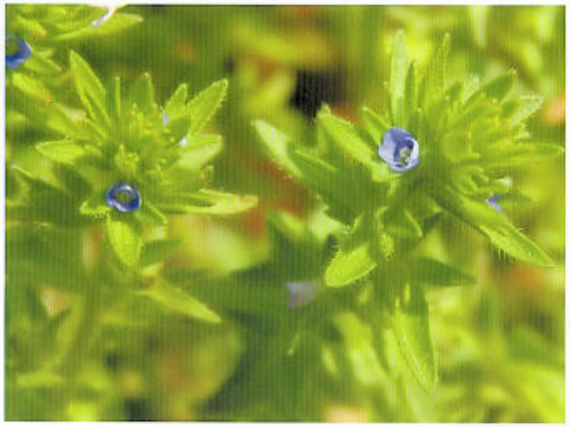
みつけたよ!!

外来種のオオイヌノフグリはどこにでもはびこり、わがもの顔に咲いています。その勢いに追われた在来種のイヌノフグリは、影をひそめてしまいました。

ところが一昨年、青蓮寺の境内で赤い色の小さな花を見つけました。葉はゴマノハグサ科の特徴を持っています。"ヤッター"と、歓声をあげました。

愛らしい小さな花に思わず微笑んでしまいます。しばらくして長福寺の境内でもイヌノフグリを見つけました。今まで、図鑑などでしか見ることがなかった花に出会え"咲いていてくれてありがとう"の思いです。

オオイヌノフグリの果実
果実が犬のフグリに似ていることからついた名前です。果実の大きさは、5～7mm程です。



タチイヌノフグリ（立犬の陰嚢）
ゴマノハグサ科 4月 ※周西
立ちあがるように咲きます。花の大きさは3mm程です。

フラサバソウ（フラサバ草）
ゴマノハグサ科 3月 ※周西
"もうそろそろ咲く頃かな"待ちかねて大堰へ出かけてみると、霜が降りた草むらでひっそり咲いています。

オオイヌノフグリ（大犬の陰嚢）
ゴマノハグサ科 3月 ※全域
早い時には12月頃から見かけます。野原で確かな存在感がある春の花です。

ジロボウエンゴサク（次郎坊延胡索）
ケシ科 4月 ※人見

ムラサキケマン（紫華鬘）
ケシ科 4月 ※人見・坂田・小香の棚田
ケマンはお寺の仏殿などを飾る仏具のことです。花のつき方がいかにもそれらしく面白いですが、毒草です。

ジロボウさんに会いました

「ジロボウエンゴサク」は珍しい花です。周西地域にはない花だという先入観がありました。ところが、撮影班が人見神社の参道で見つけた一株は、紛れもない「ジロボウ」さんです。以前、人見神社へ行った時の画像を調べてみると、ムラサキケマンに混じって、この花がちゃんと「鎮座して」いました。今まで何度も通った道なのに、貴重な花を見逃していたのです。

花弁は4枚ですがその先が人間の顔のように見え、なんともユーモラスです。今年の春は、この花のようにスリムになろう！と思うのは、私だけでしょうか。

ウラシマソウ（浦島草） サトイモ科
4月 ※人見・坂田・君津台・三舟山

ヒガンマムシグサ（彼岸蝮草）
サトイモ科 4月 ※三舟山

両方ともに蝮がちょっと頭をもたげたような花です。花の先から伸びている紐状のものを、浦島太郎の釣竿にたとえてウラシマソウ。紐がついていないのはマムシグサといいます。

周西の春

本名輪遺跡公園

ソメイヨシノ（染井吉野）
バラ科 4月 ※周西・三舟山

桜前線が北上すると、待ちに待った桜が咲いて一気に春です。

雪中庵蓼太は、世の中の移り変わりの早いさまを桜にたとえ、「世の中は　三日見ぬまに　桜かな」と、俳句に詠んでいます。

花吹雪にまどろみ、心ゆくまで周西の桜を愛でましょう。

メジロ

咲くもよし　散るもまたよし　桜花　～闘志浪～

周西の桜見どころ
本名輪遺跡公園・坂田緩衝緑地キャンプ場・大堰・坂田小付近・小糸川沿い・人見神社西端公園・周西幼稚園・君津高校・大和田団地

人見神社

大堰

小糸川

ヒメハギ(姫萩)
ヒメハギ科 4月 ※君津台

本名輪遺跡公園で

君津台の本名輪遺跡公園に、平地では見られない珍しい花が数種類咲きます。

ヒメハギもそのひとつで、名前のとおり小さくて可憐な花です。4月中頃、そっと芽を出し、茎を伸ばした先に咲く花の見事な造形美に溜め息がもれます。“きれいね！きれい！”と言いながら、土手にへばりつくようにして写真を撮ります。

初めて見る花、惚れ惚れする艶やかな色合い。初めて知る名前、初めてマクロで撮れた感動。初めてづくしの余韻を惜しみつつ“また、来ようね”。“また来る”来年の約束をしながら坂を下りました。

ヒメハギが　雅染めるや　遺跡道　～龍王犀人～

キランソウ(紫藍草)
シソ科 4月 ※人見・坂田・三舟山・小香の棚田
緩衝緑地の野球場で撮影隊長の“見つけたよ！”という大きな声がします。“わぁー”と皆で集まると紫色のキランソウでした。

ツクバキンモンソウ(筑波錦紋草)
シソ科 4月 ※君津台・三舟山
キランソウに大変よく似ています。里山で咲く花、唇の形をした白い花が立ちあがるように咲きます。

スミレの種子

蟻は好きなところを食べるため、種を運びます。種は捨ててしまいますが、そこから発芽します。

スミレが咲く頃

桜の開花に合わせるように、スミレが姿を見せます。本名輪遺跡公園では濃い紫色の「スミレ」、畦道、道端には「アリアケスミレ」が咲きます。人見神社へ向かう参道では「コスミレ」が、緩衝緑地の野球場や大堰の周りでは普通によく見られる「タチツボスミレ」が咲きます。

山路来て　なにやらゆかし　すみれ草

松尾芭蕉が詠んだのは、どんなすみれだったのでしょうか。

タチツボスミレ（立坪菫）スミレ科 4月 ※全域

スミレ（菫）
スミレ科 4月 ※君津台

コスミレ（小菫）
スミレ科 4月 ※人見

アリアケスミレ（有明菫）
スミレ科 4月 ※君津台

萌えいずる春

春の小糸川辺(べり)を歩く。
道端に白い小さな花がポツポツ。

あなたはだーれ
私はハコベ
春の七草よ

緑なす野原にハコベの息吹伝わり、萌えいずる春です。

コハコベ(小繁縷)
ナデシコ科 4月 ※全域
春の七草のひとつです。よく似ている花にミドリハコベがあります。生の葉をかんでみたことがありますが青臭くて思わず顔をしかめました。

ウシハコベ(牛繁縷)
ナデシコ科 4月 ※坂田・三舟山
コハコベよりも花も葉も大きい。花弁は5枚ですが、切れ込みが深いので10枚花弁のように見えます。

ネバリノミノツヅリ(ねばり蚤の綴り)
ナデシコ科 4月 ※周西
花の大きさは5mm程、アスファルトの間から芽を出し、こんもりとした小さな茂みをつくる。

ノミノフスマ(蚤の衾)
ナデシコ科 4月 ※人見・小香の棚田
しとやかに美しいハコベの仲間。葉が小さく、水田に生えます。

ツメクサ(爪草)
ナデシコ科 4月 ※周西
花の大きさは3mm程、葉が鳥の爪のように鋭い形をしています。

道端に咲く花

荒地や道端に咲く花、2～3mmの小さな花、見過ごされる花、どんな花にも名前があります。草むらの中をのぞいてみると、青い小さな花が“撮ってください”といわんばかりに顔を出します。名前を「キュウリグサ」といいます。“何でキュウリグサという名前なの？”図鑑には葉をもむと胡瓜の匂いがすると書かれていますが、実際にもんでみてもそれほどの匂いはありません。ハナイバナは葉の内側に花が咲くので「葉内花」です。名前の付け方はいたって単純ですが、面白いです。

キュウリグサ（胡瓜草）
ムラサキ科 4月 ※全域

ハナイバナ（葉内花）
ムラサキ科 4月 ※坂田・君津台
花は葉と葉の内側に咲きます。

ヒメウズ（姫烏頭）
キンポウゲ科 3月
※坂田・小香の棚田

ヒメウズ

長福寺の境内では、ヒメウズが咲いています。花柄は細く全体に頼りなげですが、立ち姿が美しい花です。
風が吹くと絶え間なく揺れ、ちらちらする花に焦点を合わせて“エイッ”とばかりにシャッターを押します。

ヒメウズの
姉さん被り
楚楚として
～闘志浪～

ナズナ（薺）別名 ペンペングサ
アブラナ科 3月 ※全域

マメグンバイナズナ
（豆軍配薺）
アブラナ科 4月
※人見・坂田・君津台

古　道

古道を歩く

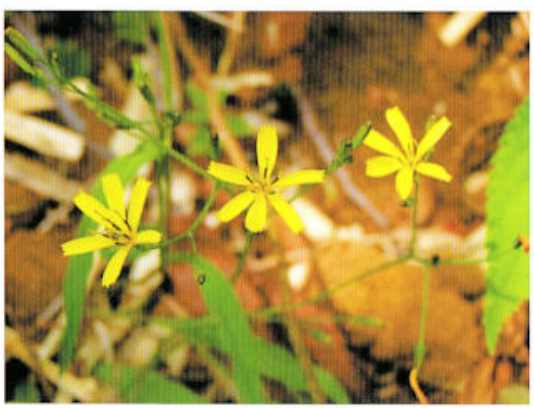
散歩の途中、珍しい花を見つけた。初めて見る花で名前はわからない。家に戻って調べてみるとニリンソウらしい。花は一輪しかないので翌日もう一度確かめに行った。よく見れば下の方に小さな蕾がついている。ニリンソウに間違いない。

ニリンソウが咲く道は歴史をたどる往還道につながっています。

往還道　歩く野辺に　二輪草
優しくもあり　可愛くもあり
～カン太郎～

ニリンソウ（二輪草）
キンポウゲ科 4月 ※君津台・三舟山

カキドオシ（垣通し）
シソ科 4月 ※坂田
どこでも咲いていそうで、周西地域では意外に見かけることが少ない花です。ようやく坂田キャンプ場で見つけました。



ニガナ（苦菜）
キク科 4月 ※坂田・君津台・三舟山
小香の棚田
葉をちぎると乳液がでる。その乳液に苦味があるのでこの名前が付いたと言われます。

オランダミミナグサ（和蘭耳菜草）
ナデシコ科 4月 ※全域
「オランダ」がつくので外来種を意味します。葉はネズミの耳に似ています。荒地、空き地などどこでも咲きます。

セイヨウタンポポ（西洋蒲公英）
キク科 3月 ※全域

綿毛になって飛んでいく

道端に、空き地に、子供の頃から親しんだ黄色のタンポポの花が、明るく元気に咲いています。

花はやがて綿毛になり、しゃぼん玉のように春風に乗って飛んで行きます。どこかで新しい芽を出し、お日様に向かって愛らしい花を咲かせていくことでしょう。

シロバナタンポポ（白花蒲公英）
キク科 4月 ※人見・坂田・君津台
白花タンポポは在来種の花、関東以西、九州や四国で多く見られます。坂田、君津台の空き地ではかなりの群生があり、周西公民館の庭でも咲きます。

セイヨウタンポポ
総苞片が反り返っている。

カントウタンポポ
総苞片が反り返らない。

タンポポの綿毛

タンポポの秘密

タンポポは踏まれたり、茎が折れたり、葉がちぎれたりしても、すぐに立ち上がり元気を取り戻します。その秘密はタンポポの根の長さにあるようです。タンポポの根は大変長くて50～90cm位あります。ここに養分をためることが出来るので、踏まれてもすぐに新しい芽を出し、花を咲かせることが出来ます。

オヤブジラミ（雄藪虱）
セリ科 5月 ※人見・坂田・君津台
全体に刺状の毛が生えていて、衣服などに付くヒッツキ虫です。

雑草のように！

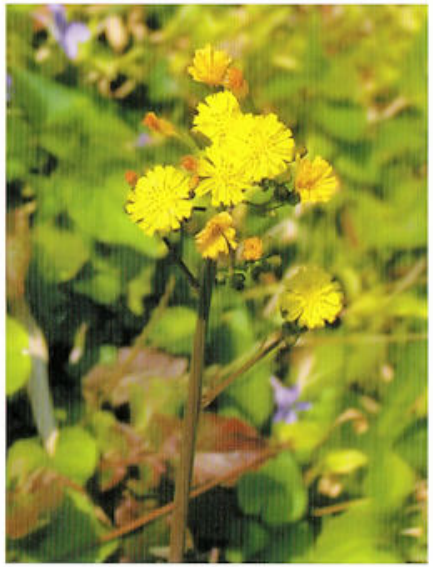
雑草のようにたくましく！といわれますが、それはノゲシのことかもしれません。

春たけなわの頃、野原の生い茂る草の中から、ギザギザの大きな葉を広げ“わたしはここよ！”といわんばかりにアピールします。黄色の花は明るい太陽の花、元気をもらいます。“君はすごいね！”といって褒めてあげたい。

花後は綿毛が出来て、風に乗って舞い、次なる場所で子孫を残します。

ノゲシ（野芥子）
キク科 5月 ※全域
葉はやわらかくて触っても痛くありません。

オニノゲシ（鬼野芥子）
キク科 6月 ※全域
葉が大きく刺があり、触れると痛い。



オニタビラコ（鬼田平子）
キク科 4月 ※全域
大きくなると草丈１mにもなり、春から秋まで咲きます。

ウスジロノゲシ（薄白野芥子）
キク科 4月 ※坂田
花弁の先が白色で、よく見かけるノゲシとは少し違います。坂田八幡神社脇の坂道で咲いています。

コオニタビラコ（小鬼田平子）
キク科 4月 ※坂田・小香の棚田
田にはりつくように葉を広げ、小さな花が咲きます。春の七草のホトケノザはこの花のことです。

カラスとスズメ

花も実も大きいのをカラスノエンドウ、小さいのをスズメノエンドウといい、その中間をカスマグサといいます。

草花の名前にはそれぞれいわれがあって、調べてみると興味がつきません。「イヌガラシ、イヌナズナ、イヌホオズキ」など頭に「イヌ」がつく場合は役に立たないという意味があります。「犬」ではなく、その植物の利用価値を否定する「否(いぬ)」です。

「アブラナ、ナズナ、ヨメナ」のように、名前の後ろに「ナ(菜)」がつく場合は食べられるという意味です。ヒメウズ、ヒメハギなど「ヒメ(姫)」がつく場合は小さい、逆にオニタビラコ、オニノゲシなど「オニ(鬼)」がつく場合は強くて大きいという意味です。

(参考)
カスマグサ

カラスノエンドウ(烏野豌豆)
マメ科 4月 ※周西
葉の先端は矢筈の形にへこむことからヤハズエンドウともよばれます。

カラスノエンドウ
果実

ヤセウツボ(痩靫)
ハマウツボ科 6月 ※人見・坂田
ヤセウツボは寄生植物で、マメ科の植物や、タンポポやヨモギなどに寄生し、宿主から栄養分、水分をもらうちゃっかりものです。

スズメノエンウ
の花

スズメノエンドウ
の果実

スズメノエンドウ(雀野豌豆)
マメ科 4月 ※大和田・坂田
カラスノエンドウやカスマグサと同じ場所に咲いていることが多いです。
花の大きさは3mmほど、カラスノエンドウがとても大きく見えます。

坂田の寺家坂

坂田地域は昭和40年代に開発されましたが、「寺家坂(じんさか)」と呼ばれるこの道だけは昔のまま残りました。

坂田地区住民の多くは丘陵地南面山裾に居を構えていたので、この道は海に出入りするための主要な生活道路でした。また、浜は魚介類※1がよく獲れ、シーズンになると潮干狩りの観光客で大賑わいだったそうです。

寺家坂の入口には「ひがしかのうざん」と書いた道標が有ります。昔、10月の秋祭りには八幡神社前から道標、寺家坂、浜へのコースは、馬出し奉納の馬場でした。寺家坂の途中には、馬頭観音や六地蔵があります。

春にはスイセン、オドリコソウ、クサノオウ、秋にはツリガネニンジン、ホタルブクロが群れて咲きます。寺家坂にはそんな昔の面影が今も残っています。

オドリコソウ(踊子草)　シソ科 4月 ※坂田
オドリコソウは在来種で名前の通りに笠をかぶった踊り子が、輪になって踊っているようにみえます。

クサノオウ(瘡の王)
ケシ科 4月 ※坂田・三舟山
花は美しいです。切った時にでる黄色の汁に毒が有ります。

寺家坂へ上がる道の角に道標があります。
東 かのう山江 三り半
西 富津江 二り半
北 木更津江 二り
と刻まれています。

ケキツネノボタン(毛狐の牡丹)
キンポウゲ科 5月 ※人見・小香の棚田
名前のとおり茎に毛が多い。

野原の中で

野原の中で、はいつくばって草むらをよく見ると、小さな草花と虫たちの世界が見えてきます。

人知れず咲いている草花の、そのどれもが精巧な芸術作品のようで、その周りでは忙しそうに動き回っている小さな虫達もいます。

広く青い空の下、幸せの時が静かに流れる。私は草花と一緒にいられるなら、ほんのちょっとの場所であっても一日中飽きることなく過ごすことが出来るでしょう。

タガラシ(田辛子)
キンポウゲ科 4月 ※人見
水田に生えるキンポウゲの仲間の中で、もっとも花が小さい。

オオジシバリ(大地縛り)
キク科 4月 ※全域
葉はへらの形をしています。

キンポウゲ(金鳳花)
キンポウゲ科 5月 ※大和田
黄色の花弁がつやつやに輝いています。

ノボロギク(野襤褸菊)
キク科 4月 ※周西

ウツギ(空木)
ユキノシタ科 5月 ※坂田・三舟山

卯の花の匂う垣根に

学校の近くで咲いているのがいいですね。
「卯の花の匂う垣根に～♪」と校舎から歌声が聞こえてきそうです。
「卯の花とはどんな花」そう思って卯の花探しをしたことがあります。新緑の季節、山々は一面の緑、その中にひときわ目立つ白い花が、風に揺れ白い波を立てています。

卯の花とはウツギのこと、この季節どこへ行っても見られる爽やかな花です。
「卯の花の匂い」とはどんな意味でしょうか。実は卯の花には匂いはなく、同じ時期に咲くみかんの花の匂いではないかという説があります。今度はそれを確かめなくてはなりません。一つの花にまつわるいろいろを探して歩くのも楽しいことです。

コゴメウツギ(小米空木)
バラ科 4月 ※坂田・君津台・三舟山

クサボケ

クサという名前がついていますが、落葉性の低木です。
地元の人から"昔はシドンミがたくさん咲いていたんだけれども、近頃はさっぱり見なくなった"と聞きました。「シドンミ」に興味を持ちましたが、どんな木なのか見当もつきません。そうこうするうちに"クサボケが咲いたから、見に来ねいかい"とこれも地元の方のお誘いです。シドンミもクサボケも同じ花、民家の庭先で赤々と咲いていました。

クサボケ(草木瓜) 別名 シドンミ(シドミ)
バラ科 4月 ※坂田

人見山で

人見山は国道16号線と小糸川が交差する地点の南側に位置する海抜67.5mの低い山です。獅子山ともいわれ、山頂には人見神社があります。

鳥居の西側の山の斜面で風に揺れながら咲くアケビやハリエンジュの花をサークルのみんなで撮りに行きました。吹きつける川風に花が揺れ、なかなか思うように撮れません。

～ハリエンジュの花言葉～
「慕情」「優雅」「真実の愛」「甘い誘惑」

アケビ（木通・通草）
アケビ科 5月 ※人見・坂田
山裾の雑木に絡みついた蔓に淡紫色の花が咲きます。葉が5枚です。

ハリエンジュ（針槐） 別名 ニセアカア
マメ科 5月 ※人見・坂田・君津台

ミツバアケビ（三ツ葉木通）
アケビ科 4月 ※坂田・君津台
花は赤紫色をしていますが、雌花は大きく目立ちます。雄花はブドウの房のような形をしています。

ナツグミ（夏茱萸）
グミ科 4月 ※大和田・坂田
古老の話では、昔は家の周りの垣根に利用したそうです。

果実：6月

ウグイスカグラ（鶯神楽）
スイカズラ科 4月 ※人見
ゆうゆう館の庭で珍しい木を見つけました。

果実：5月

クローバーの思い出

ハハコグサ(母子草)
キク科 5月 ※全域
春の七草のひとつ、御形(ゴギョウ)です。

チチコグサ(父子草)　キク科 5月
※全域　仲間の花には、チチコグサモドキ、ウラジロチチコグサ、ベニバナチチコグサ等があります。

野原一面、シロツメクサの波。幸福のシンボル「四葉」を夢中で探して遊んだ記憶を皆さんお持ちでしょう。

野原でクローバーをポッケ一杯に摘み、日がな一日夢中で遊びました。編んで輪にして頭に飾ったり、葉っぱをからませて引張りっこしたり、ヒバリのさえずりをお供に家路についたこと。遅くなって叱られたことなど、まさにポエムです。

齢重ね幾星霜、若き日の郷愁を呼び起こすクローバーの園は、今やデジカメで興じるグランドステージとなりました。唱歌「家路」のメロディーは、携帯ゲームに興じる子どもたちの耳には届かなくなるのでしょうか。思い出が交差する道を踏みしめ家路を急ぐ背に夕日が紅く輝いていました。

家　路

野上彰作詩・ドボルザーク作曲(「新世界から」より)

やがて夜の　訪れに　星のかげも　見えそめた
草の露に　ぬれながら　つえをついて　辿るのは
年を老いて　待ちわびる　森の中の
　　母の家　母の家

シロツメクサ(白詰草)
マメ科 4月 ※全域

ムラサキツメクサ(紫詰草)
マメ科 4月 ※周西

マツバウンラン(松葉海蘭)
ゴマノハグサ科 6月 ※坂田

人見大通りで

君津から富津に抜ける人見大通りにある街路樹の根元には、排気ガスをものともせず、白い釣鐘型のハコベホオズキの花が頑張って咲いています。

広い葉の間に咲くこの小さな花を一心に写していると、通りかかった人は不思議そうな眼差しを向けます。

写すことに夢中！気になんかしていられません。一度でもこの花に気付いたら、その愛らしさの魅力のとりこになるでしょう。

人は人　私は私　無我夢中
遊び心を　知るや知らずや
～掌～

ハコベホオズキ(繁縷酸漿)
ナス科 5月 ※人見
花の大きさは8mm程、壺の形をした花が下向きに咲きます。葉はハコベに似ています。

ナガミヒナゲシ(長実雛罌粟)
ケシ科 5月 ※周西
4～5月の小糸川沿いの遊歩道では、ナガミヒナゲシが連なって咲きます。

マメカミツレ(豆カミツレ)
キク科 3月 ※周西
マメは小さいこと、カミツレはカモミールのことです。

命がけです

小さな花をマクロで撮るのは大変なことです。先輩は"命をかけて撮れ"と言います。その花との出会いは一度きりだと思いなさいという意味です。確かにもう一度撮り直したいと思い再び花を訪ねても、時期が過ぎていたり、刈り取られた後だったりで、二度目の出会いは叶わないことが多いものです。

二度目の出会いはないと思って「命をかけて撮る」。そのつもりですが、それでも失敗してしまうことが多いです。

小糸川の風景

小糸川の菜の花

黄色のアブラナ属の花は、どれもよく似ているのですべて「菜の花」と呼んでいます。

菜の花は千葉県の県花ですが、小糸川の川岸一面を黄色に染める景色は実に壮観で、桜の花とともに小糸川の春を彩ります。

アブラナは、在来種のアブラナと西洋アブラナがありますが、野菜として利用したり、菜種油を採るために栽培されてきました。

ヒバリ

菜の花が
揺れる川面で
ヒバリ鳴く
～雲雀～

ハマダイコン（浜大根）
アブラナ科 5月 ※坂田
大根が野生化したものです。

ショカツサイ（諸葛菜）
アブラナ科 4月 ※坂田

諸葛菜

植物学の父・牧野富太郎が名付けた「オオアライセイトウ」は、別名ショカツサイ、ムラサキハナナ（紫花菜）、ハナダイコン（花大根）と呼ばれています。諸葛孔明が、出征時に栽培して糧食にしたというのが名前の由来です。

孔明が　今に伝える　諸葛菜
～諸葛陸～

ハルジオン（春紫苑）
キク科 4月 ※全域

ハルジオン

春先、ピンク色の蕾をつけ、白色や淡紅色の花が開くと、辺りがぱっと明るくなります。野原や空き地、川の土手などに咲き、モンシロチョウやベニシジミがよく来て止まります。蝶の乱舞に思わず微笑み、野趣あふれる花から元気をもらいます。

夏に咲くヒメジョオンとよく似ていますが、ハルジオンは蕾がうなだれるのが特徴です。

アメリカフウロ（亜米利加風露）
フウロソウ科 5月 ※周西
淡紅色の5枚花弁の花は調和のとれた美しさがあり、見つけると思わず足を止めます。秋に咲くゲンノショウコ（在来種）に似ていますが、アメリカフウロは外来種の花です。

ウサギアオイ（兎葵）
アオイ科 4月 ※大和田
葉は大きく、ごわごわした感じがしますが、対照的に花はやさしい淡紅色です。

ノヂシャ（野萵苣）
オミナエシ科 4月 ※坂田
「記念碑」前の空き地一面にノヂシャが咲いています。

トウダイグサ（燈台草）
トウダイグサ科 4月 ※坂田
空き地や道端のどこでも咲いていますが、面白い形をしています。

藤の花見

4～5月にかけて、大堰の周りではフジが咲きます。紫色の長い房が池の周りに垂れ下がり新緑の大堰を彩ります。

昔、藤の花が咲く頃には蔓が巻きついた花姿が池面に映り、余りの見事さに見物人が集まったという逸話があります。

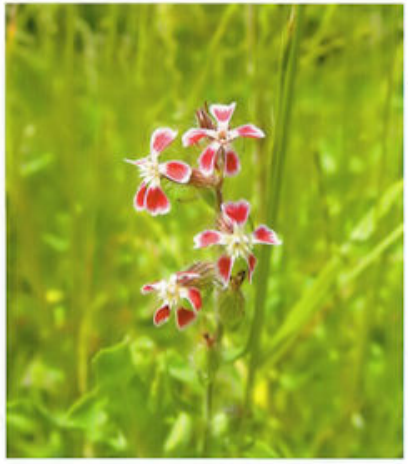
公園などの藤棚を飾るのは栽培品種のフジで、緩衝緑地大和田広場や人見地区の惣作公園で豪華な藤棚が見られます。

フジ(藤)
マメ科 4月 ※君津台・三舟山

フジ(ノダフジ) 緩衝緑地大和田広場

藤棚を 飾りし野田の フジの花 大堰染めし 藤ぞ麗し ～堰守～

マンテマの 花を訪ねて
野にいれば
風にふるえし
うぶ毛めだちぬ
～なずな～



マンテマ
ナデシコ科 5月 ※人見
珍しい花ですが、小糸川の遊歩道に沿って群生しています。

シロバナマンテマ
ナデシコ科 5月 ※周西・小香の棚田
白色も淡紅色もシロバナマンテマです。道路わきや荒れ地ではびこる外来種です。

周西の初夏

青空に映えて、白いノイバラが咲きます。大和田緑地や小糸川の川岸に群生が見られ、甘い香りに蜂や蝶が群がります。

「童は見たり、野なかのバラ…♪」野ばらはゲーテの詩で、シューベルトを初め多くの音楽家が曲をつけています。

ノイバラ（野茨）
バラ科 5月 ※人見・大和田
白い花は清潔感があります。

ナワシロイチゴ（苗代苺）
バラ科 6月 ※人見・大和田・坂田
初めて見たときは、リボンのような形をした花に驚きます。花の造形は、どうして生まれるのかな？摩訶不思議です。

キショウブ（黄菖蒲）
アヤメ科 5月 ※人見・大和田・小香の棚田
以前から人見橋の袂で咲いていますが、年々広がっています。美しい花ですが「要注意外来生物」に指定されています。

カタバミ（片喰）
カタバミ科 4月 ※周西

ムラサキカタバミ
（紫片喰）
カタバミ科 6月 ※全域

ウスアカカタバミ
（薄赤片喰）
カタバミ科 4月 ※周西
花の中心に濃い黄色の輪があります。

足元で咲く
小さな花

“オーイ”何かに呼ばれたようでふと足元を見ると、小さな花が見上げています。
花は咲いているだけ、足で踏まれても、風に揺さぶられてもただ咲いています。
金色に輝くマンネングサの仲間もそんな花です。

オカタイトゴメ(岡大唐米)
ベンケイソウ科 6月 ※坂田
葉が米粒のように小さい。

メキシコマンネングサ(メキシコ万年草)
ベンケイソウ科 5月 ※周西
花は金色に輝く星の形をしています。

ムシクサ(虫草)
ゴマノハグサ科 4月 ※人見・坂田
周西公民館の駐車場で咲いています。

コモチマンネングサ(子持ち万年草)
ベンケイソウ科 6月 ※坂田
花後に落ちたムカゴから新しい芽が育ちます。

ツルマンネングサ(蔓万年草)
ベンケイソウ科 5月 ※坂田
蔓が伸びて繁殖します。

ハナヤエムグラ(花八重葎)
アカネ科 4月 ※大和田
道路の分離帯の草むらで咲きます。

周西公民館にて

敷地周辺は、野草の宝庫です。
春先にはツクシ、キュウリグサ、ナズナ、オランダミミナグサ、タンポポ、シロバナタンポポ、ムラサキツメクサ、シロツメクサなどが、その後からチチコグサ、トキワハゼ、ムシクサ、ヘラオオバコ、ニワゼキショウ、ネジバナなど色とりどり。今日はハゼランとヒメコバンソウを見つけた。

一年中、自然が織りなすネイチャーガーデンが楽しめます。
5月の爽やかな風が公民館の庭を通り抜けると、その風に誘われるかのように花たちが絶え間なく揺れ動き、短い花の命を一生懸命に謳歌します。

ニワゼキショウ（庭石菖）
アヤメ科 5月 ※全域
満天星空の世界が公園等の芝生の中で広がっています。この花の中に寝転んで空を仰いでみたくなります。

ヘラオオバコ（箆大葉子）
オオバコ科 5月 ※人見・坂田・大和田
長い茎が揺れて、小人たちが三角帽子の頭をふり、楽しく踊っているようにみえます。

コバンソウ（小判草）
イネ科 5月 ※坂田・君津台・小香の棚田
穂の形が「小判」に似ています。花穂がそよぐと涼しい風を感じます。

ヒメコバンソウ（姫小判草）
イネ科 5月 ※周西・小香の棚田
花穂は3～4mm程、三角の形をしています。

トキワツユクサ

トキワツユクサ(常盤露草)
ツユクサ科 5月 ※周西

トキワツユクサの鮮やかな白。小さいながら光り輝く姿にほれぼれします。雨に濡れたあと、お陽様の光と水滴のコントラストは格別です。この花には、このロケーションがお似合いです。

美しい花を美しいアングルに収める。常々、これが花を愛で撮り歩く者のエチケットと思いファインダーを覗きます。今日もどんな出会いがあるのか。出掛ける度にワクワクします。

坂田小学校近くの坂道で、たくさんの群生が見られます。生徒達のはずんだ声と純白の花がとても似合っています。

朝の露　濡らすトキワに　化粧水　～花風～

キキョウソウ(桔梗草)
キキョウ科 5月 ※周西
道路際などで見られる、最近増えてきた外来種の花です。

コナスビ(小茄子)
サクラソウ科 6月
※坂田・君津台・三舟山
葉に隠れるように黄色の花が咲きます。

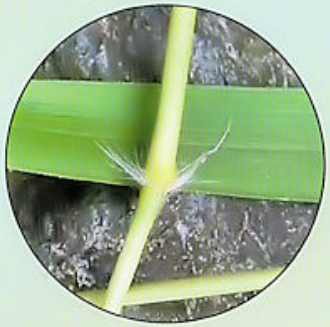
ブタナ(豚菜)
キク科 5月 ※君津台
草丈50cm位、茎の先にタンポポに似た花をつけます。本名輪遺跡公園の夏はブタナの花で黄色に彩られます。

スイカズラ(吸葛)
スイカズラ科 5月 ※全域
他の木に絡まりながら蔓を伸ばし、一つの蔓に白色と黄色の花が咲きます。冬場でも葉が落ちないことから、別名　ニンドウ(忍冬)といいます。

ハコネニシキウツギ(箱根二色空木)
スイカズラ科 5月 ※坂田・君津台・三舟山
咲き初めは白色で次第に赤くなります。春の終わりから初夏にかけて、二色の花が同時に見られます。

ハタケニラ(畑韮)
ユリ科 5月 ※坂田
繁殖力が強い帰化植物、畑の雑草です。

チガヤ(茅)　イネ科 5月 ※全域



茅の穂の下の節に、毛があるのは「フシゲチガヤ」。毛がないのは「ケナシチガヤ」と言います。周西地域には両方が見られます。

コウゾリナ(顔剃菜)
キク科 5月 ※坂田・三舟山
全体に剛毛があり、ひげをそった後のように触るとざらつきます。

周西の夏

ホタルブクロ(蛍袋)
キキョウ科 6月 ※人見・坂田

ホタルブクロは、ぶら下がって咲く花を提灯に見立てて、火垂(ほたる・提灯の古語)をあてたという説と、子供たちが花の中にホタルを入れて遊んだからとの説があるようです。

小香の梅田川沿いで6月ごろ源氏ボタルが、7月になると棚田の奥で平家ボタルが飛び交います。辺りが暗くなると、どこからともなくスーッと現れてどこかへ消えていきます。ホタルが飛び交うたびに歓声が上がり、幻想的な光景に酔いしれます。夏の一夜、童心にかえりホタルと戯れてみてはいかがでしょうか。

梅　雨

梅雨の頃になるとホタルブクロ、ネジバナ、トキワツユクサなどの野の花は、梅雨空の下でしっかりと根を張り、花弁を広げて誇らしげに"夏が来たよ"と歌います。

ノビル(野蒜)
ユリ科 5月 ※人見

ドクダミ(毒溜)
ドクダミ科 5月 ※全域
花弁や萼(ガク)はなく、黄色の部分が花です。白い部分は総苞といいます。

ネジバナ(捩花)
ラン科 6月 ※周西・小香の棚田

ネジバナの
どこまで続く　花の道
蟻の旅人　しばしたたずむ
～かぼす～

いつ咲くの？

朝咲くから朝顔、夕方咲くので夕顔、昼間咲くので昼顔等咲く時間によって名前がついた花があります。ところが、朝顔は朝になってから咲くのではなく、夜明け前から咲いていることもあります。前の日の夕方暗くなってから、一定の時間がたつと開花するという説があります。

植物は花粉を媒介してくれる昆虫の活動に合わせたり、一日の温度変化を感じたりして開花するのだと思われます。ヒルガオは、朝から咲き、昼までずっと咲いています。

ヒルザキツキミソウ（昼咲月見草）
アカバナ科 5月 ※周西
マツヨイグサの仲間ですが、昼間咲くので昼咲き月見草といいます。

ヒルガオ（昼顔）
ヒルガオ科 6月 ※周西
野原や道端などに多い蔓草。 ヒルガオ・コヒルガオは大変良く似ています。ヒルガオの花は5cm位、コヒルガオは名前の通り、多少小形です。

オシロイバナ（白粉花）
オシロイバナ科 7月 ※周西
夕方から咲くので「ユウゲショウ」。
また「四時花」ともいいます。

ハゼラン（爆蘭）
スベリヒユ科 6月 ※人見・坂田
線香花火のような花ですが、午後3時頃から咲くので「三時花」ともいいます。

アカバナユウゲショウ（赤花夕化粧）
アカバナ科 5月 ※坂田
朝から咲き、オシロイバナと区別するために「アカバナ」がつきます。

夏の余白

ネムノキの葉のように夜は
　ヒッソリ閉じた。
たわいもなく暑い日は過ぎて
ねむの木の花のように夕暮れは
　赤く咲いた。
そして夏の余白だけが
　汗ばんでいた。

詩集「田舎の夕暮れ」
坂井　昭より

ネムノキ（合歓木）
マメ科 7月 ※人見・坂田・三舟山

大和田団地の一隅でキバナノマツバニンジン、ハナハマセンブリ、オカトラノオが、秋にはホトトギスも咲きます。

ハナハマセンブリ（花浜千振）
リンドウ科 6月 ※大和田
太陽が見えないと閉じてしまいます。

オカトラノオ

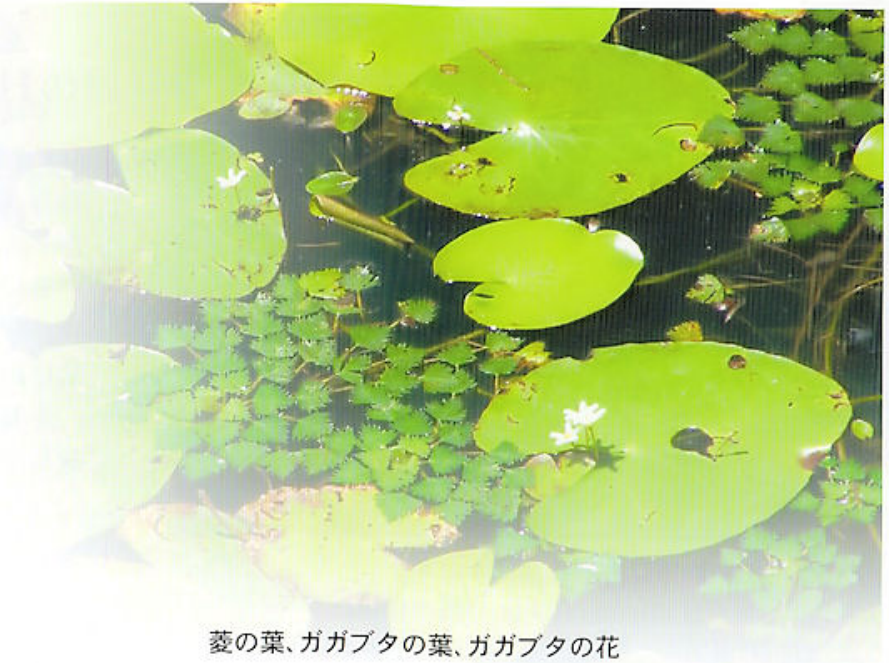
キバナノマツバニンジン
（黄花松葉人参）
アマ科 6月 ※大和田
花は午後開き、数時間経つと散ってしまいます。

大堰の自然

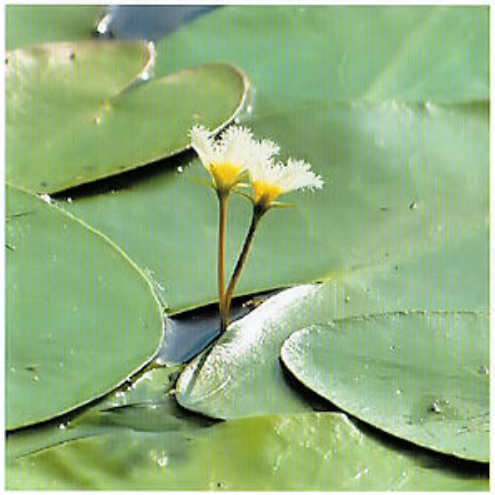
昔、坂田には堰が七ッあったと言われています。村人たちは灌漑用水として大切にしました。現在は大堰、新堰の二堰です。

水は良質でハンゲショウ、ガガブタ、チョウトンボ等の珍しい生物が観察されます。また、水鳥も多く、サギのコロニーも形成され、住宅地に近いにもかかわらず渡り鳥が飛来するなど、貴重な生物の生育環境が残されています。

最近、大堰には生育していなかった蓮が大量に繁殖し、ガガブタやヒシを初めとする在来植物の生育環境を脅かしつつあります。また、これらの枯れ葉は、汚泥となり水質汚濁の一因にもなっています。平安の時代から引き継がれてきた遺産を大切にしたいものです。



菱の葉、ガガブタの葉、ガガブタの花



ガガブタ（鏡蓋）
ミツガシワ科 7月 ※君津台
ため池に生育する在来種の水草。ハスの勢いに押され減少しています。（絶滅危惧種）

ヒシ（菱）
ヒシ科 8月 ※君津台
万葉集に登場する水草で、花の大きさは8mm程です。（在来種）

ハゴロモモ（羽衣藻）
スイレン科 8月 ※君津台
別名フサジュンサイ。金魚藻とも呼ばれる繁殖力の強い帰化水草です。

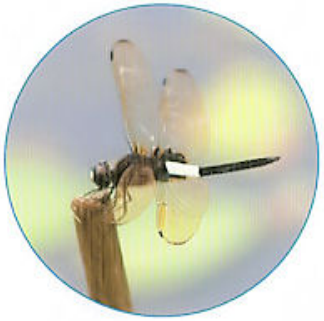
開発進む中で「ハンゲショウ」が……

平成16年7月7日、朝日新聞（千葉版）で新堰に珍しい花が咲くと紹介されました。葉の半分が白く長い花穂がうなだれるようについた「ハンゲショウ」でした。陽が当たらない林の中に広がる白と緑色の群生は、幽玄で神秘的な感じがします。それから毎年7月初めになると、新堰へ出かけます。

その後、三舟や小糸川の河原にもハンゲショウが咲いているのを知りました。周西や三舟では普通に見られる花ですが、地域によって絶滅が危惧される種に指定されています。

半夏生の頃に咲く植物にカラスビシャクがあります。これは「半夏」といい薬草です。

ハンゲショウ（半夏生）
ドクダミ科 7月 ※人見・君津台・小香の棚田
暦の上では夏至から11日目を半夏生といい、その頃に咲く。
葉が半分白いので半化粧ともいう。



大堰を囲むように、アシ・ガマ・イグサ等が生育します。アシの茂みの中でチョウトンボ（左）が生まれ育ちます。昔懐かしいオニヤンマやコシアキトンボ（右）も池の縁で飛び交います。

ヒメガマ（姫蒲）
ガマ科 7月 ※君津台
草丈は2m位、葉の幅は細く1cm位です。花茎の上の方に細長い雌花穂が、下の方に少し太めの雄花穂がつきます。

ガマ（蒲）
ガマ科 8月 ※小香の棚田
小香の棚田では「ガマ」が見られます。上の花穂と下の花穂はくっついています。

ソクズ(蒴クズ)
スイカズラ科 8月 ※坂田
草丈1.5m位、坂田の学校に沿った道で咲きます。

夏の日の風景

初めて見る花に足が止まり、目を釘付けにして見詰めます。焼きつくコンクリートの上で、照り返す塀の傍らで、したたる汗を拭くのも忘れ花とにらめっこします。

夏には夏の花との出会いがあります。蝶が来て、蜂が来て、夏の風景が広がります。出会った花と出会った場所を記憶にとどめ、思い出の一枚がアルバムを飾るでしょう。

ヒメジョオン(姫女苑)
キク科 5月 ※全域
どこまでも続く田圃道に、どこまでもヒメジョオンが咲きます。春に咲くハルジオンとよく似ています。

ヒメマツバボタン(姫松葉牡丹)
スベリヒユ科 8月 ※坂田
花の大きさは1cm位、元気な根性花です。

ハマコウゾリナ(浜剃刀菜)
キク科 7月 ※坂田
コウゾリナの仲間です。

ヒメヒオウギズイセン
(姫緋扇水仙)
アヤメ科 7月 ※坂田・君津台
夏の太陽の下で金魚のような形と色をして咲いています。

カラスビシャク(烏柄杓)
サトイモ科 5月 ※人見・坂田
暦の上の半夏生の頃に咲きます。

カラスウリ（烏瓜）
ウリ科 7月 ※全域

ヨウシュヤマゴボウ（洋種山牛蒡）
ヤマゴボウ科 8月 ※周西・三舟山
子供の頃のままごと遊びで、ヨウシュヤマゴボウの赤紫色に熟した実をつぶし、ブドウジュースを作ったことを思い出します。

真夏の夜の饗宴

夕方、薄暗くなってから花が開き、翌朝にはしぼんでしまう一日花です。カラスウリが咲いているところを一度見てみたいと思い、つぼみがついた茎を家に持ち帰り、水鉢に入れて観察してみました。辺りが暗くなると間もなく大きなつぼみが膨らんで白い糸を伸ばし、レース模様の花（大きさ7cm位）が咲きます。絡んだ糸をほぐすように伸びていく様子は幻想的。“どう、私きれいでしょ”。“私の方がもっときれいよ”。囁き交わす言葉が聞こえてきそう。

真夏の夜、野や山ではだれにも知られることなく、白い花が次から次へと咲いていることでしょう。

開花始まる

果実

種子

ヘクソカズラ（屁糞葛）
アカネ科 7月 ※周西・三舟山

ヘクソカズラの思い出

幼い頃、家の生垣にからみつき沢山の花が咲いていた憶えがあります。その花にツバをつけ鼻の頭に付けてよく遊んだものです。当時は名前も知らず、匂いもあまり気になりませんでした。あらためて“屁糞とはねぇ～”と思いますが、別名は「早乙女花」です。花の姿は清純な乙女そのものです。

たかが雑草　されど雑草

野草は、山野に自生する草で路傍や空き地に多く生育しています。雑草は、人間の意図に関係なく自然に繁殖する草(草本)で、単に草という場合もあるようです。

小さくて、目立たず、踏まれても、踏まれても立ち上がるその根性は、「草魂」という言葉で表現されます。頑張って生き続けようとする姿を見ると、自然に“なにくそ、負けるものか”という勇気が湧いてきます。雑草という名前の草はありませんが「たかが雑草、されど雑草」。

雑草は身近にありながら、ついつい忘れ去られがちな植物と言えるでしょう。

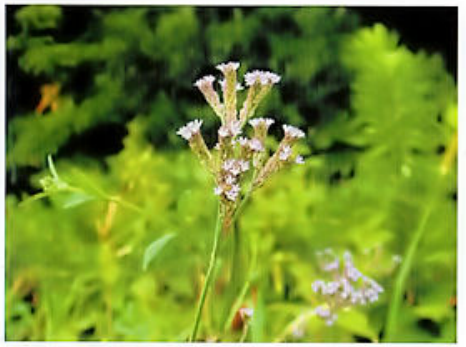
野草・雑草が生きる姿を鏡として、これからの「人生の糧」にしていければと思います。

ほの結ぶ野草隠れの花薄
とけでや秋も過むとすらむ

『清慎公集〔970項〕』

イヌホオズキ(犬酸漿)
ナス科 9月 ※坂田

イヌホオズキ
古い時代に日本へ入ってきた史前帰化植物です。アメリカイヌホオズキとの見分けは、花柄が少しずつずれていること、果実につやがないことです。道端や空き地で見られます。



アレチハナガサ(荒地花笠)
クマツヅラ科 8月 ※人見・坂田

ワルナスビ(悪茄子)
ナス科 8月 ※大和田

アメリカセンダングサ(亜米利加栴檀草)
キク科 9月 ※全域

コセンダングサ(小栴檀草)
キク科 10月 ※人見

アメリカイヌホオズキ(亜米利加犬酸漿)
ナス科 11月 ※全域

アメリカイヌホオズキ
イヌホオズキよりもよく見られる花です。
花の色は紫色を帯びることもあり、花の数は1～4個ぐらい、果実はつやがあります。花柄が一点から出るのが特徴で、外来種です。

シンテッポウユリ（新鉄砲百合）
ユリ科 6月 ※大和田・坂田
タカサゴユリとテッポウユリの交雑種です。

似ているでしょう！

よく似た草花はどうやって見分けるのでしょうか。花の名前は図鑑やインターネットなどで調べますが、スミレや野菊などは種類が多いので難しいです。

植物に詳しい方はその違いを、咲いている場所、花の大きさや構造、葉や茎の違い、毛や刺の有無などで見分けるようです。

長年わからなかった花の名前が、他の花を調べていてわかることもあります。そんな時はとっても嬉しい！感激します。

タカサゴユリ（高砂百合）
ユリ科 8月 ※人見　花の外側に紫褐色の縞があり葉が細い。

果実：11月

ボタンヅル（牡丹蔓）
キンポウゲ科 9月 ※坂田・小香の棚田
葉が牡丹の葉に似ていて、山に多く生育しています。

果実：10月

センニンソウ（仙人草）
キンポウゲ科 9月 ※全域
花後に、仙人のひげに似た実が出来ます。

果実：11月

クコ（枸杞）
ナス科 9月 ※人見・大和田・坂田
昔から民間薬・漢方薬として使われています。
小糸川の河原や土手でよく見ます。

果実：10月

クサギ（臭木）
クマツヅラ科 8月 ※人見・坂田・三舟山
夏にはアゲハチョウが舞う姿をよく見かけ、秋にはおしゃれな濃い藍色の果実に変身します。

メマツヨイグサ（雌待宵草） 8月 ※全域

コマツヨイグサ（小待宵草） 8月 ※全域

マツヨイグサ（待宵草） 4月 ※大和田

マツヨイグサの仲間はすべてアカバナ科の帰化植物です。白い花は月見草、淡紅色は昼咲月見草、赤い花は夕化粧、黄色い花は待宵草と呼びます。日本の紀行・風土にあったのか、文学作品にも登場します。太宰治の『富嶽百景』にある一節「富士には月見草がよく似合う」の月見草は、黄色いオオマツヨイグサのことではないかと言われています。また、竹久夢二の詩歌タイトルに使われている「宵待草」という花はなく、植物学的には「マツヨイグサ（待宵草）」のことです。

周西の秋

赤とんぼの思い出

子どもの頃、遊び疲れた帰り道の原っぱの上を群れ飛ぶ赤とんぼは友達だった。

茅の穂先に止まっているのを見付けては、そっと近寄り目先で指を回し「ひょい」と捕まえる。トンボ採りに興じ無我夢中だった。

夕空を見上げると埋め尽くすほど赤とんぼが舞う光景をよく目にした。

“これは戦争で亡くなった人たちの霊がふるさとに戻ってきたのだ”と年寄りから聞かされた記憶がある。

秋は物哀しくも、また、郷愁を誘う季節でもある。

蜻蛉釣り　今日は何処まで　行ったやら

～加賀千代女～

ヒガンバナの別名は「蔓珠沙華、死人花、幽霊花」など、毎年秋の彼岸頃になると燃えるような赤い花を咲かせます。

小糸川の土手でも所々で見られますが赤い花は遠くからでもそれとわかります。

「赤い花なら曼珠沙華…♪♪」は、随分古い歌ですが数奇な運命に翻弄された「じゃがたらお春」の哀しい物語です。

ヒガンバナが華やかなわりに寂しさを感じるのはこの歌のせい、それともお寺やお墓の近くに咲いているせいでしょうか。

ヒガンバナ（彼岸花）
ヒガンバナ科　9月
※人見・大和田・坂田・小香の棚田

ヤハズソウ（矢筈草）
マメ科　9月　※坂田
堺田公園の芝生の中をのぞくと、小さな赤い花が見えます。葉の大きさは1cm位、ちぎると矢筈の形に切れます。

マメアサガオ（豆朝顔）
ヒルガオ科　9月　※人見・坂田
夏の終わりごろ、真白な小さな花が線路際に並んで咲きます。一面に白い花が広がり、ここだけで見られる夏の風物です。

線路沿いで

昭和30年代の内房線を走るＳＬの写真を見ると、線路の両側は一面広い田圃や畑、野原が続いています。

仲間の一人が線路沿いでナンバンギセルを見つけました。ススキ等に寄生する植物で、道路と線路に挟まれた僅かな隙間に点々と咲いています。

ススキの葉で手に傷を負いながら、キセルに似た花を一心にカメラに収めます。

ナンバンギセルは、『万葉集』に「思い草」として登場します。

道の辺の尾花が下の思ひ草
今さらさらに何をか思はむ　『万葉集』

ナンバンギセル（南蛮煙管）
ハマウツボ科 9月 ※坂田

ツルボ（蔓穂）
ユリ科 9月 ※人見・坂田・三舟山
お寺やお墓の周りで咲いていることが多いですが、いつも行く公園でも咲きます。

ツユクサ（露草）
ツユクサ科 9月 ※全域

月草に～

ツユクサはどこにでもある雑草ですが、別名も多く月草、藍花、蛍草、青花、移草など『万葉集』には、月草を詠ったものが9首あるそうです。

月草に衣は摺(す)らむ
朝露に　濡れての後(あと)は
移ろひぬとも
『万葉集』

シロバナツユクサ（白花露草）
ツユクサ科 9月 ※人見
白いツユクサはあまり見かけない花ですが、人見神社の境内で咲きます。

ハギ(萩)　マメ科

ススキ(薄、尾花のこと)　イネ科

クズ(葛)　マメ科　9月　※全域

ナデシコ(撫子)　ナデシコ科

オミナエシ(女郎花)　オミナエシ科

フジバカマ(藤袴)　キク科

秋の七草

秋の野に　咲きたる花を　指折り※1
かき数ふれば　七種(ななくさ)の花
萩の花　尾花　葛花　撫子の花
女郎花　また藤袴　朝貌(あさがお)
の花　　『万葉集』　山上憶良

春の七草は「七草がゆ」などにして食べることを楽しみますが、秋の七草は花を愛でることを楽しみます。

昔は普通に野原で見ることが出来た秋の七草ですが、次第に減少しつつあります。アサガオの花は、桔梗だと言われ、巷で見るナデシコ、キキョウ、フジバカマ等の多くは園芸種です。

※1「指折」は、指折り(およびおり)と読みます。

キキョウ(桔梗)　キキョウ科

みんな豆の花

ヤブツルアズキを図鑑で調べると、花や葉がアズキに似ているとあります。

はてさて、農家育ちの自分だが、50年経つとアズキの花や葉がどうであったか思い出せない。困ったことに、ヤブツルアズキに似たノアズキもあるそうだ。

葉の大きさや形、蔓性であるかないかで違いがわかるとのこと。

マップが取り持つご縁で草花図鑑と出会い、撮るときの課題を教わる。古希の手習いと相成った。

これから、花だけでなく葉や茎も撮ることにしよう。

ヤブツルアズキ（藪蔓小豆）
マメ科 9月 ※人見
ヤブツルアズキは蔓性の植物で、葉は菱形です。野原や田の藪で見られます。

ヤブマメ（藪豆）
マメ科 10月 ※人見・小香の棚田
林の縁の藪のようなところで蔓を伸ばし広がります。地上にも地下にも果実を作りますが、地下の豆は食べられます。淡い紫色の蝶形の花に惹きつけられます。

ツルマメ（蔓豆）
マメ科 9月 ※人見・小香の棚田
大豆の原種、夏から秋にかけて赤紫色の蝶の形をした花が咲きます。

クサネム（草合歓）
マメ科 8月 ※人見

クサネム

クサネムは手入れの行きとどいた田では少ないですが、放置されたような田では群生しています。民家から遠く離れた田圃の中で、写真を撮っていると"にゃーん"と猫がよってきます。マクロで撮ろうとカメラを低く構えたそばで足にまとわりつく。よほど人恋しかったらしく、場所を変えてもすぐに寄ってきて背中にまで乗る始末、困ったものです。私は犬好き、猫は苦手です。そこそこに退散しました。

シロバナサクラタデ(白花桜蓼)
タデ科 9月 ※人見・大和田・小香の棚田
この花をしっかり撮るのは難しいですね。"う～ん"とうなってばかりです。

蓼食う虫も

「蓼食う虫も好き好き」ということわざがありますが、辛くて苦い蓼を好んで食べる虫がいるように、人の好みはさまざまです。

秋の田圃ではいろいろな蓼が見られますが、蓼の花は3～5mm程の小さな花ばかりです。

収　穫

蓼を食う　ほぞ噛む前に　蓼談義
～鳥骨鶏～

イヌタデ(犬蓼) 別名 赤まんま
タデ科 10月 ※周西・小香の棚田
子供の頃の遊び「ままごと」を思い出します。

オオイヌタデ(大犬蓼)
タデ科 9月 ※三舟山
三舟山の山頂でかなり群生していました。数年前のことです。

ヤナギタデ(柳蓼) 別名 ホンタデ
タデ科 11月 ※小香の棚田
葉に辛みがあり、香辛料や薬味になります。

ゲンノショウコ(現の証拠)
フウロソウ科 9月 ※坂田・小香の棚田
夏から秋にかけて、小さな花が次々と咲き、薬草として用いられ、小さな5枚の花びらは品がよく清楚です。

神輿草(みこしぐさ)

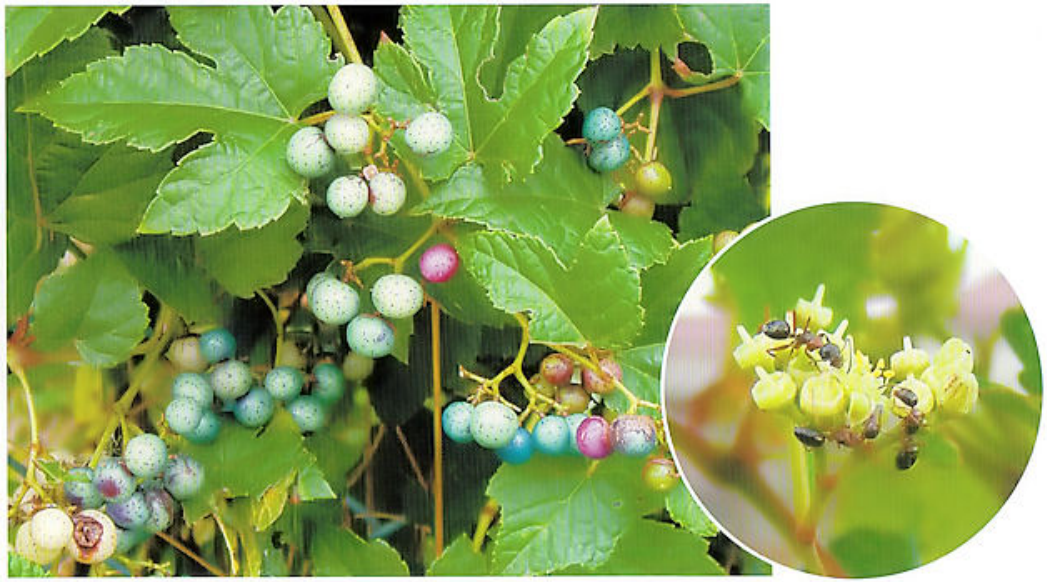
花後の実の形は神輿に似ているので、別名「神輿草」といいます。11～12月頃の野原では、神輿の屋根の形をした実があちこちで見られます。

アキノノゲシ(秋の野芥子)
キク科 8月 ※全域
秋に咲く「のげし」、8月頃から11月頃まで咲きます。
草丈は1～2mも有り、野原で凛として咲く姿は雑草とは思えない。好きな花の一つです。

キツネノマゴ(狐の孫)
キツネノマゴ科 11月 ※坂田・三舟山
キツネがつく花の名前はキツネアザミ、キツネノカミソリ、キツネノボタン等があります。

ミズヒキ(水引)
タデ科 9月 ※人見・坂田・三舟山・小香の棚田
木陰など暗い場所に多く、花は上から見ると赤く、下から見ると白く見えます。

ハキダメギク(掃溜菊)
キク科 9月 ※周西
掃溜めのようなところに生えるので「ハキダメギク」。荒地や空き地、道端などに生えます。



ノブドウ(野葡萄)
ブドウ科 9月 ※大和田・坂田・三舟山

ノブドウの花:9月

秋の実の時

木々の葉は舞い落ちて路端に積もります。野山の草花は赤く染まり、ノブドウも花から実へと姿をかえて秋を彩ります。日をます毎に赤や青や紫の色を重ね、最後には七色のグラデーション。その宝石のような輝きにうっとりします。

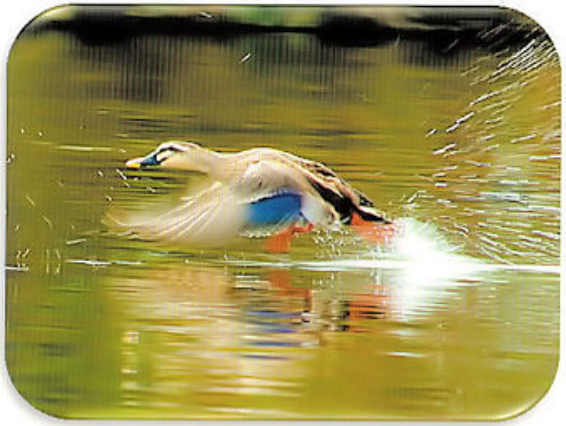
秋は色を楽しむ時、花の終わりを楽しむ時、地味な花ほど、終わりの時は艶やかかも知れません。

今一つ　またひとつ見る　花すがた
マクロの窓に　アリンコ遊ぶ
～野太鼓～

エビヅル(蝦蔓)
ブドウ科 11月 ※人見・大和田
「エビ」はブドウの古名です。エビヅルは巻きひげを他の木に絡ませて伸びます。

アオツヅラフジ(青葛藤) 別名 カミエビ
ツヅラフジ科 11月 ※人見・三舟山
花は地味ですが、ブドウに似た実が出来る。カミエビとは神様のエビヅルのことです。

イシミカワ(石実皮)
タデ科 10月 ※人見
花後の果実は熟すと藍色をし、丸い皿(苞葉)に盛られたように見えます。茎には刺があります。



春へ向かって！　飛翔

坂田　銀杏街路樹

周西の晩秋

大和田、坂田丘陵の木々の紅葉が終わり、街路の落葉が木枯に吹かれて舞い始めると秋は終わりやがて冬が訪れる。

花も、実も終わった。渡りを終えたのだろうか、鳥の姿、鳴き声も少ない。デジカメ片手に自然の営みを追いかけ散策した山野は、すっかり息をひそめ、やがて訪れる季節への準備に余念がない。

季節や天候で大きく左右されるが、人見神社からの東京湾眺望は「千葉眺望100景」に選ばれるほど。特に、展望台からの富士山は雄大で迫力があり、さらに横浜方面（ベイブリッジ、ランドマークタワー）や三浦半島、伊豆大島、丹沢山系などの大パノラマが堪能できる。貴方の心のふるさとに思いを馳せて、どうぞご覧ください。

千葉眺望100景

第Ⅱ章　三舟の地域

山頂　展望台

三舟山は、君津市と富津市にまたがる標高138.7mのなだらかな丘陵です。昭和30年頃は、たき木を採る、薪や炭を作る、落ち葉を集めて肥料にする、茅を耕作して屋根を葺くなど、小香の人々にとって自然の恵みを得るための暮らしの中心でした。

昭和30年後半から、薪に代わってプロパンガスが使われるようになってから生活様式が一変しました。農業だけでなく外へ仕事に出る人が増えて、人手不足から山の手入れが行き届かなくなり、山は次第に放置され荒れるにまかせる状態になりました。

平成10年から自然林としてアメニティー化が進められ、市民が親しむ憩いの場としての環境整備が開始しました。

平成20年4月、小香の棚田に「三舟の里案内所」がオープンしました。土日は家族連れ、平日はシルバー世代が集い、格好の里山健康ウオーク拠点として賑わっています。

この里山には、動植物など豊富な自然が残っています。植物については、春先から初夏にかけてスミレやオカトラノオの群生や、ここに来ると見られる在来種の貴重な草花が鑑賞できます。この里山環境が大切に保全され、後世に引き継がれ、植物の宝庫であり続けることを願ってやみません。

撮影範囲：三舟山・アメニティロード・小香の棚田

三舟の里　案内所

三舟の春

ヒトリシズカ(一人静)
センリョウ科 4月 ※三舟山
早春の花、濃い緑色の葉の間に白いブラシのような花が咲きます。

ヤブレガサ(破れ傘)
キク科 4月 ※三舟山
傘をかぶって並ぶ姿は、いなせな旅人のようです。山頂近くで"よおっ！"と迎えてくれます。

吹きおろす風に、幾分温かみを感じつつアメニティロードを歩く。山の木々は、いまだ芽吹き遠く、道の両側は枯葉が残り秋の色が濃い。そんな里山を歩いていて、道端にぽつぽつと咲くスミレを見かけると春が間近いことを感じます。展望台は東京湾岸地帯の景観が一望出来る最高のビューポイント。空気が乾燥し天気がよいと、市街地は勿論、アクアライン・海ほたる・東京スカイツリーや東京ゲートブリッジなどを眺望することができます。

フデリンドウ(筆竜胆)
リンドウ科 3月 ※三舟山
草丈5cmほどの小さな花です。

フデリンドウ

フデリンドウの花は、雨や曇りには開かず、陽が当たる日中に開きます。行くときには見えなかった花を、帰り道で見つけることがしばしばあります。光線の具合や角度による錯覚なのでしょうか。
それからは、往路はないから復路もないという意識は捨て、注意深く観察することにしました。

エノシマキブシ(江の島木五倍子)
キブシ科 3月 ※坂田・三舟山
黄緑色の花が房になってぶら下がる早春の風物詩。

新緑のころ

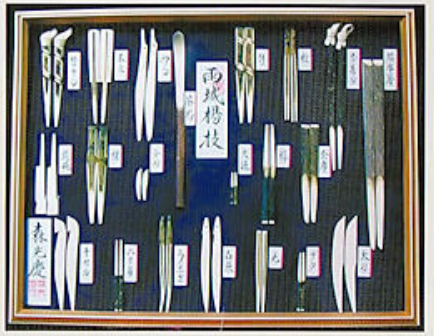
厳しい冬が終わり、穏やかな春の日差しが降り注ぐと、樹木は芽吹きの時です。

長い枝を伸ばし、眩しい程に輝く黄緑色の葉には、命がみなぎっています。

野山が若葉の緑で彩られ、その清々しさに心を躍らせながら山道を歩くのもいいものです。

クロモジ(黒文字) クスノキ科 4月 ※坂田・三舟山

黒い樹皮に出る模様を文字に見立てて「クロモジ」といわれ久留里に多く自生します。江戸時代に久留里藩士の内職として楊枝が作られるようになりました。雨が多いことから久留里城は「雨城」とよばれ、「雨城楊枝」として全国に知られています。



「千葉県指定伝統的工芸品」
森光慶作

モミジイチゴ(紅葉苺)
バラ科 3月 ※坂田・三舟山
葉が紅葉に似ていて、黄色の実がなります。

果実:5月

モミジイチゴの果実は、キイチゴの仲間の中で一番おいしいといわれます。キイチゴには他にクサイチゴ、ナワシロイチゴ、フユイチゴがあります。

小鳥のさえずりとともに

桜の季節、アメニティロードを登って行くとヤマザクラやオオシマザクラ、ソメイヨシノなどが咲き誇っています。頬を伝わる汗に心地よい風を受けてベンチで一休み。小鳥のさえずりを聞きながら山頂を目指します。山頂は平らな台地で、オオシマザクラの堂々たる古木が目につきます。樹齢はどの位でしょうか。

また、台地には北条・里見の合戦（永禄10年：1567）の戦死者を葬ったとされる塚が13あったそうです。塚の周りにはミツバツツジが植えられ季節感を演出しています。

オオシマザクラ（大島桜）
バラ科 4月 ※人見・三舟山
3～4月頃、花と葉が同時に開きます。花は白色の五弁花です。

ヤマザクラ（山桜）
バラ科 4月 ※三舟山
葉と花がほとんど同時に開き、新葉は赤みを帯びるので花がより赤く見えます。

オオシマザクラ

青空と
桜と風を
供にして
登る三舟や
春爛漫

～人見庵～

山頂の小道行く

マメザクラ（豆桜）
バラ科 4月 ※三舟山
花の大きさは1～2cmほど、下向きに咲きます。

東屋の　小径を下り　振り仰ぐ
青空高く　マメザクラ見ゆ

～闘志浪～

ウワミズザクラ（上溝桜）
バラ科 4月 ※三舟山
ソメイヨシノより遅く、4～5月頃に咲きます。

さまざまの
こと思ひ出す
桜かな

～松尾芭蕉～

ツボスミレ(坪菫) 別名 ニョイスミレ
スミレ科 4月 ※三舟山

スミレの季節

山道を歩いてスミレを見つけると“あっ、スミレだ！”と声をあげてしまうのは私だけでしょうか。“春が来たよ！”といわんばかりに一斉に咲き始め、その限りない優しさに癒されること、しばしばです。

普通によく見るのはタチツボスミレです。山頂ではツボスミレが大きな群落を作っています。

地面すれすれのところにカメラを構え、ピントを合わせてそっとシャッターを押します。 静かな時が流れ、ほのかなスミレの匂いがします。

三舟山
野辺の小道に
スミレ咲き
～菫女～

アカネスミレ(茜菫)
スミレ科 4月 ※三舟山

ニオイタチツボスミレ
(匂立坪菫)
スミレ科 4月
※坂田・三舟山

タチツボスミレ(立坪菫)
スミレ科 4月 ※全域

スミレの距(きょ)

スミレの花は5弁でそのうち一つが大きく、基部は後ろに突き出して袋状の部分(距)を作る。この距には蜜が入っていてハチを呼び寄せます。

ミミナグサ（耳菜草）
ナデシコ科 4月 ※小香の棚田

在来種の里

棚田の畦で茎が暗紫色をした白い花を見つけ、名前を調べると「ミミナグサ」でした。花はまばらにつきますが、その姿はいとおしくとても可愛いです。

外来種のオランダミミナグサは道端、荒れ地で繁茂繁栄を極めていますが、在来種のミミナグサは、市街地ではなくなりつつある花です。

ホタルカズラ、オカトラノオ、コマツナギ、コシオガマ、キランソウ、タチツボスミレ、キンラン、ギンラン、ツリガネニンジン、ヤマハッカ、ツクバトリカブト、ヤブカンゾウ等など。他にも三舟の里には多くの在来種の草花が息づいています。

ツルカノコソウ（蔓鹿の子草）
オミナエシ科 4月 ※坂田・小香の棚田
白色の小さな丸い蕾が鹿の子模様を思わせます。日陰の湿った場所で咲いています。

ナツトウダイ（夏燈台）
トウダイグサ科 4月 ※三舟山
赤い小さな花と三日月の形をした腺体と小房があり、腺体が4個集まり面白い形をしています。

ホタルカズラ（蛍葛）
ムラサキ科 4月 ※三舟山
三舟山の登り口斜面で見られ、咲き始めは赤紫色ですが次第に青色に変わります。青い花は蛍の光に似ています。

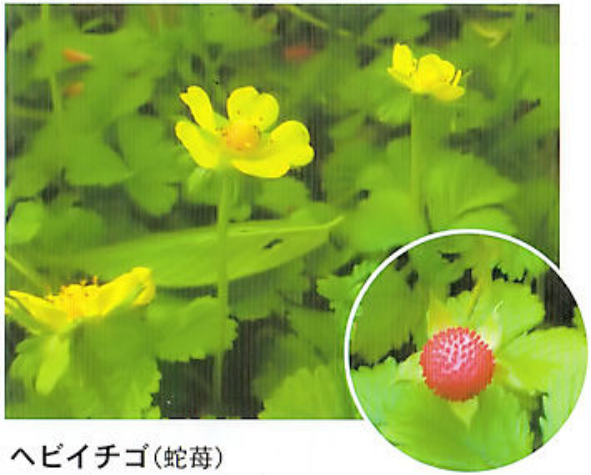
野いちごの仲間

山や野原へ野いちごを摘みに行った。そんな素敵な経験ありますか。

クサイチゴ、ニガイチゴは白い花、ナワシロイチゴは薄い紅色の花。ヘビイチゴの仲間は黄色の花をつけます。

ヘビという名前がついているのは、蛇が出そうな所にはえる。果実が美味しくないので蛇しか食べない。とか、そんな意味です。ヘビイチゴの仲間にはヤブヘビイチゴがあります。

キジムシロとミツバツチグリはよく似ていますが、それぞれ特徴があります。



果実:5月

ヘビイチゴ(蛇苺)
バラ科 4月 ※小香の棚田
花弁の間の副萼片(ふくがくへん)が小さく、雄しべが小さいのが特徴です。

キジムシロ(雉筵)
バラ科 4月 ※三舟山
葉の先に小葉が3枚、その下に2枚ずつ小葉が2～3列並び、こんもりとしているのが特徴です。

ヤブヘビイチゴ(藪蛇苺)
バラ科 4月 ※小香の棚田
花弁の間の副萼片が大きい、雄しべが丸くて大きく、藪のような所に生えます。

クサイチゴ(草苺)
バラ科 4月 ※大和田・坂田・三舟山
キイチゴの仲間で、花も実も大きい。

ミツバツチグリ(三葉土栗)
バラ科 5月 ※君津台・三舟山
おしべが小さく、一つの葉に小葉が3枚付いているのが特徴、キジムシロに似ています。

イカリソウ(錨草)　メギ科 4月 ※三舟山
船のイカリに似た不思議な花の姿に目が奪われます。

遠足は楽しい

♪ラ～ラ～ラ　春の遠足楽しいね。
スミレも咲いた、レンゲも咲いたよ。
三舟山を歩くといろいろな花との出会いもあるよ！
ちょうちょうもひらひらとんでいるよ。
君はいくつみつけられるかな。

三舟山のアメニティロードは一周約1.7km、45分くらいの散策路です。
休みの日には家族連れで賑わいます。

エビネ(海老根)
ラン科 4月 ※三舟山
絶滅が心配される貴重な花です。

シュンラン(春蘭)
ラン科 3月 ※坂田・三舟山

シュンラン

年々少なくなっている花の一つです。
坂田の山道で咲いているとのことで出かけてみました。
シュンランが緑色の線形の葉の中で咲いていました。
今度は三舟山で見つけたとの情報です。黄緑色の花は、生まれたての初々しさで眩しいほどです。イカリソウもエビネも、山道から少しそれた場所でひっそりと咲いています。
春を彩る山野草は愛好家も多いですが、毎年同じ場所で見ることが出来るとほっとします。

春蘭が　麗し野辺の　道しるべ
～龍王犀人～

れんげ草の思い出

子供の頃、私が育った小学校の周りは田んぼに囲まれ、春になると放課後はレンゲ畑で過ごしたものです。一面にジュウタンを敷き詰めたように真っ赤に染まり、その上を素足でピョンピョン跳びはねたり、花の茎を編んでつなげ髪飾りを作ったりしました。田圃の周りには水路があり、オタマジャクシやカエル、ザリガニを捕まえて遊んだものです。

レンゲの花を眺めていると、幼き日のそんな素朴な情景が走馬灯のように思い起こされます。レンゲはもともと畑の緑肥や家畜の飼料として植えられましたが、化学肥料の普及により減少しつつあります。

春の風物詩がまた一つ消えてしまいそうです。

手にとらで　矢張野に置け　れんげ草　～瓢水～

レンゲソウ（蓮華草）
マメ科 4月 ※小香の棚田　和名はゲンゲ

トキワハゼ（常盤爆）
ゴマハノグサ科 4月 ※人見・坂田・小香の棚田
花の大きさは1cmほど、道端や畔道で春～秋まで見られます。よく似ている花に「ムラサキサギゴケ」があります。

ホウチャクソウ（宝鐸草）
ユリ科 4月 ※坂田・三舟山
撮影会で見かけ、誰かが「オウチャクソウ」と呼んだので大笑い。お寺の軒下につり下げられる飾りものを宝鐸と言います。

ナルコユリ（鳴子百合）
ユリ科 5月 ※三舟山
茎は丸く、花と花柄の接点に突起があります。よく似ている「アマドコロ」は茎に稜があり角ばった感じがしますが、見分けるのは難しいです。

キンラン(金蘭)
ラン科 5月 ※三舟山

ギンラン(銀蘭)
ラン科 5月 ※三舟山

キンランとギンラン

キンラン、ギンランは日本の野生蘭で、絶滅が心配される花ですが、三舟山の雑木林の中で元気に咲いています。

黄色の花はキンランで草丈30～70cm。白い花がギンランで草丈10～25cm程度です。数が少ないので見つけるのはむずかしいかもしれません。

菌や樹木と共生しているので、花だけを掘り起こして植え替えても枯れてしまいます。

キンラン、ギンランは三舟山の明るい雑木林の中にあってこその命です。大切に見守っていかなければなりません。

立浪が　ラ音を奏で　山辺咲く
子つばめ歌い　夏はきぬ　～人見庵～

ヒナギキョウ(雛桔梗)
キキョウ科 7月 ※三舟山

オカタツナミソウ(丘立浪草)
シソ科 5月 ※三舟山

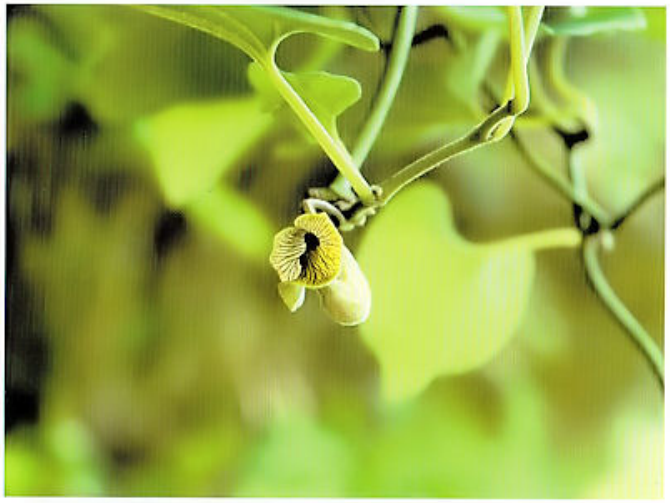
オカタツナミソウ

“そろそろ咲いているかも知れない”と友達に誘われて、三舟山へ出かけました。期待通り、山の入口から少し入った斜面に淡い紫色の花が群生しているではありませんか。

ここ数年、気にかけていましたが、なかなか見ることが出来なかった花です。“再び会うことが出来てとても嬉しい！”

波立つ姿に似ているからついた名前ですが、私には口を大きくあけて親が運んでくる餌をおねだりするツバメの雛のようにみえます。

三舟の夏

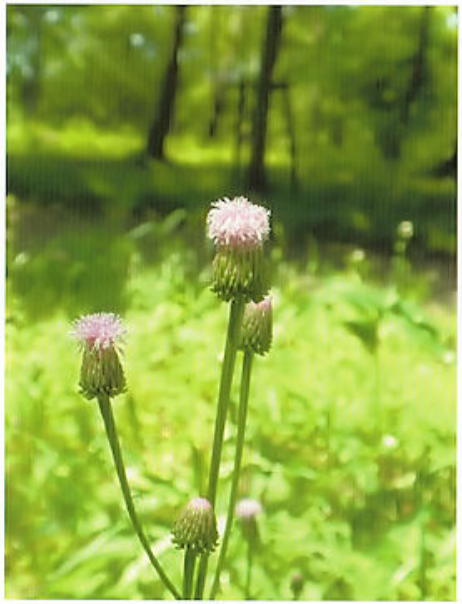


オオバウマノスズクサ（大葉馬の鈴草）
ウマノスズクサ科 5月 ※三舟山

「三舟の里案内所」で“オオバウマノスズクサが咲いているよ”と教えていただきました。大木につる性の茎が絡まり、ぶら下がるようにして奇妙な花が咲いていました。実が馬の鈴に似ていることから付けられた名前ですが、花も不思議な形をしています。サキソフォンのようにU字型に曲がった花は、ずっと見ていても飽きません。

オオバウマノスズクサは葉が大きいことが特徴で、ジャコウアゲハの食草です。

イチヤクソウ（一薬草）
イチヤクソウ科 6月 ※三舟山



キツネアザミ（狐薊）
キク科 5月 ※三舟山

キツネアザミ

7年前のこと、棚田のあぜ道を登ったところで、突然この花に出会った。高さ60～70cm位はありそうで“何だろう？”と思った。心臓がドキドキするくらい驚いたことを覚えています。それ以来出会うことがなかった花ですが、今年の春、山頂でたくさん咲いているとの情報です。見られなくなってしまった花との再会は何よりも嬉しいです。

ノアザミ（野薊）
キク科 5月 ※坂田・三舟山・小香の棚田
アザミの種類はたくさんありますが、春に咲くのは「ノアザミ」だけです。
モンシロチョウがよく止まります。

オカトラノオ

オカトラノオ（丘虎の尾）
サクラソウ科 7月 ※大和田・坂田・君津台・三舟山

初夏の山頂で風に波打ち揺れる「オカトラノオ」との出会いは、一汗流した後、ほっとする清涼剤です。白い小花を散りばめて弓なりに咲くその姿は「虎の尾」に似ています。

小さな蝶が現れて、花の上をひらひらと舞います。

次から次へ、蜜を集めているのでしょうか。見事な花の群生と蝶の舞とで、何だか得した気分になりました。

ヤブカンゾウ（藪萱草）
ユリ科 7月 ※人見・坂田・小香の棚田
朝、開き始めた花は夕暮れ時に満開となり、その日のうちにしぼむ一日花です。

チダケサシ（乳茸刺）
ユキノシタ科 7月
※大和田・小香の棚田

シモツケ（下野）
バラ科 7月 ※坂田・小香の棚田
淡紅色の地味な花です。

ヤマユリ（山百合）
ユリ科 7月 ※三舟山
「山百合」の花が咲き始めると本格的な夏。山頂付近で、見つけた花は一株に三輪、一輪が20cmはある大輪です。

一期一会の花

7月の三舟山は草花でにぎやかです。かって一度は出会った花ですが、その後見かけることがありません。花の咲く時期や気象条件があえば、また会えるかもしれません。

アゼムシロ(畔筵)
キキョウ科 7月 ※小香の棚田

オオバノトンボソウ(大葉の蜻蛉草)
ラン科 7月 ※三舟山

タシロラン(田代蘭)
ラン科 7月 ※三舟山

タカトウダイ(高燈台)
トウダイグサ科 7月 ※三舟山

ウマノミツバ(馬の三つ葉)
セリ科 7月 ※三舟山

ナガバハエドクソウ(長葉蠅毒草)
ハエドクソウ科 7月 ※三舟山

コマツナギ

溝の中で、スッと立つ姿勢が良い花を見付けました。

“何だろ、なに？”。興味津々、撮影隊の出動です。“あれ、あれ。そんなに慌てなくても。ゆっくり撮ればいいじゃん”。というが早いか我先に失礼。

溝に足踏み外し靴を濡らす人。ドッカと腰を下ろしズボンのお尻が泥まみれになった人。など、様々な人間模様。他人ごとではありません。貴方のお尻も泥んこだらけ。笑い転げた一日でした。

コマツナギ（駒繋）
マメ科 7月 ※小香の棚田
馬を繋げるほど茎がしっかりしているという説と、草が美味しくて馬が動かなくなるという2説があります。

アカバナ（赤花）
アカバナ科 8月 ※人見・小香の棚田
田圃などの湿地に生える4枚花弁の赤い花。
秋になると葉や茎が紅葉するので「赤花」です。

ヒヨドリバナ（鵯花）
キク科 8月 ※坂田・三舟山

ケムラサキニガナ（毛紫苦菜）
キク科 7月 ※三舟山

タマアジサイ（玉紫陽花）
ユキノシタ科 8月 ※小香の棚田
花は淡い紫色、蕾の時は、球形をしています。

三舟の秋

オモダカ（面高）
オモダカ科 8月 ※人見・小香の棚田
中央の黄色が雄花、緑の球状が雌花。名前の通り、葉は人の面に似ているかもしれません。

ウスゲチョウジタデ（薄毛丁子蓼）
アカバナ科 9月 ※人見・小香の棚田

棚田を歩く

夏の棚田は緑に染まり
稲の合間を縫うように
ツバメすいすい宙返り
トンボは穂先で一休み
ふと我に返り汗を拭く
カラスの羽音心地よい

棚田を雨雲すっぽり覆い
ポツリ、ポツリ一雨来ると
畦のキクモやチョウジタデは
雨滴の重みに耐えきれず
小さな頭（こうべ）そっと下げ
行き過ぎるのをジッと待つ

やがて、霧雨漂い流れ
棚田の里に降り注ぐ
ほのかな日差しさし始め
湯気が「さぁ～っ」と立ちのぼる
草生す棚田に生気が戻り
カエルの合唱こだまする。

私は、こんな棚田が大好き。

コアカソ（小赤麻）
イラクサ科 8月 ※小香の棚田
雑草と言ってしまうのはもったいない！草木染めにしたり、繊維を取り出して織物にします。味わいのある作品が出来ます。私も挑戦してみたい。

キクモ（菊藻）
ゴマノハグサ科 9月 ※人見・小香の棚田

抜き足、差し足…

小さくて目立たないから、見る人も振り向く人も少ないですが、私は大好きな花の一つです。“昔の人は、この実の形が抜き足、差し足、忍び足で、そっと歩く盗人の足跡に似ているから、ヌスビトハギと付けたそうよ”その奇抜な発想に拍手喝采。

こんな雑談を交わし、幼い頃の思い出話にも花が咲きます。喧騒から開放される一時でした。

アキノタムラソウ（秋の田村草）
シソ科 9月 ※三舟山・小香の棚田

ミソハギ（禊萩）
ミソハギ科 8月 ※人見・小香の棚田

ヌスビトハギ（盗人萩）
マメ科 9月 ※坂田・小香の棚田

果実：10月

里の山
　秋の野花が
　　歩(ほ)を止める
あっちでパチリ
　　こっちでパチリ
～田螺～

ダイコンソウ（大根草）
バラ科 7月 ※小香の棚田

棚田で見かける花

年々歳々、巡り会える野の花を愛おしく思う。どんなに地味で目立たなくても野原や田圃で、一生懸命咲いています。一緒に花をながめましょう。

そうすれば草花達も一層輝きを増して咲いてくれるでしょう。

毎年、同じ場所に同じ姿で咲く花に出会った時は、“有難う”と言いましょう。

また、会えると思うから。
私は、がんばれる！

ミズオオバコ（水大葉子）
トチカガミ科 9月 ※小香の棚田

ミズオオバコ

オオバコの由縁でもある大きな葉は水の中にあります。花の大きさは3cmぐらいで、とても美しく夏の水田を彩ります。全国的には水質汚濁などにより減少しつつある水草のようですが、小香の棚田で見ることができます。

アメリカタカサブロウ（亜米利加高三郎）
キク科 9月 ※人見・小香の棚田
思わず“高三郎君”と呼びたくなるような名前です。

クルマバナ（車花）
シソ科 9月 ※小香の棚田
上から見ると、車の車輪のようにみえます。

ウリクサ（瓜草）
ゴマノハグサ科 9月 ※小香の棚田
鮮やかな紫色の小さな花が輝いているように見えます。

秋の空へ飛び立つ

“形が雁に似ているからカリガネソウだって”凛とした立ち姿から“大空へ飛び立ちたいなぁ～と思っているのではないかな”そんな会話をしながら撮影です。

ハーブなどは誰でもご存知のよい香りですが“花がこんな匂いでどうするのっ！”と、思いたくなるようなのがカリガネソウです。一度嗅いでみるのも一興です。

カリガネソウ（雁金草）
クマツヅラ科 9月 ※小香の棚田

ツルニンジン（蔓人参）
キキョウ科 9月 ※三舟山
釣鐘の形をした花の大きさは3cm位、膨らんだ蕾と一緒に吊り下がります。
初めてみた時は、驚きと感激で花の中をしばらくのぞき込んだものです。

ツリフネソウ

自然の豊かな恵みの中で、ノビノビと慎ましく花を咲かせる山野草。その生きる姿に癒しを感じます。条件が合う場所以外では育たないようです。一見、か弱げですが雑草の如き逞しさもあります。

そんな山野草の神秘を求め、毎年「追っかけ」をしています。山野草の魅力って凄いです。

撮り歩く　山野の花に　魅せられて
この幾歳ぞ　四季にうつろう

～闘志浪～

ツリフネソウ(釣舟草)　ツリフネソウ科　9月　※小香の棚田

ナンテンハギ(南天萩)
マメ科　9月　※小香の棚田
葉の形が南天に、花は萩の花に似ています。

コナギ(小菜葱)
ミズアオイ科　9月　※人見・小香棚田

コナギ
ホテイアオイに似ていて美しい花ですが、抜き取るのが厄介な水田の雑草です。
除草剤が使われない小香の棚田では、田の水路で見られます。

錦秋に向かって

9月も終わり、三舟の山に秋の気配を感じると棚田は、収穫の秋へと衣替えします。稲をハサにかけて自然乾燥させる風景は、故郷の山野で遊んだ子供の頃の思い出そのものです。

室生犀星（明治22年～昭和37年）
「抒情小曲集」より
小景異情　その二

ふるさとは遠きにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの
よしや
うらぶれて異土の乞食となるとても
帰るところにあるまじや
ひとり都のゆふぐれに
ふるさとおもひ涙ぐむ
そのこころもて
　遠きみやこにかへらばや
　遠きみやこにかへらばや

今ではあまり見られなくなった光景です。この牧歌的な里山の自然を皆で守りましょう。

小香の棚田

里山は不思議ですね

色々な自然の草花が見られる三舟山、同じ花でも去年と今年では、違う表情をしています。見るたび、初めて会ったような新鮮な気持ちになります。里山は、生きようとする力で満ち溢れています。

吾亦紅　野原薊や　杜鵑
　　釣鐘も咲く　やまの辺の路
～人見庵～

ある日“内緒だよ”といって三舟山のホトトギスのありかを教わる。秘密には弱いもので、その日のうちに出かけました。

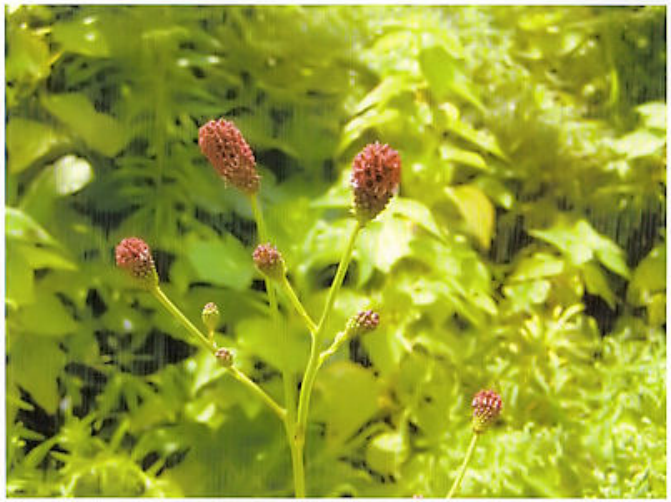
足元が少し悪かったけれど、土手を登ったところに、ホトトギスやトリカブトやサラシナショウマが咲いていました。

それ以来、毎年秘密の場所に行ってみますが、最初に見たとき以上に咲き競う花との出会いはありません。

秘密のはずだった場所はすでに秘密ではなくなってしまいました。あの王様の冠のような花を見つけた時の感激をもう一度味わいたいものです。

ツリガネニンジン（釣鐘人参）
キキョウ科 9月 ※坂田・小香の棚田

ホトトギス（杜鵑草）
ユリ科 10月
※人見・大和田・坂田・三舟山・小香の棚田



ワレモコウ（吾亦紅）
バラ科 9月 ※小香の棚田
暗紅色の赤い穂を見つめているだけで、なぜかジーンとしてしまいます。沈思黙考、ひたすら過ぎてきた日のことを思う。

イヌガラシ（犬芥子）
アブラナ科 9月
※人見・坂田・小香の棚田

アメリカアゼナ
（亜米利加畦菜）
ゴマノハグサ科 9月
※人見・小香の棚田

棚田撮影会で

トネアザミ（利根薊）
キク科 11月 ※小香の棚田

花など無縁。まして、野の花など路地の雑草程度に思っていた私。皆さんが写す写真を見ては感心するばかりだった。

そんな私に転機が。棚田の野草撮影会へのお誘いでした。気が向かないままお供。やがて、展開する野の花との出会いに目が奪われ“え～っ、これって可愛い。何て言う花？”蝶のように花のように舞い歩き有頂天です。デジカメが震えています。それからは意欲満々、撮影会には欠かさず参加しました。

希望が大きく膨らみ、いつの日か私も皆に負けない写真を撮り、写真集のようなものができればいいな。なんて「夢見る夢子さん」になっていました。

イボクサ（疣草）
ツユクサ科 10月
※人見・小香の棚田

キンミズヒキ（金水引）
バラ科 10月 ※三舟山

ミゾソバ（溝蕎麦）
タデ科 10月 ※小香の棚田

ミゾソバ

川の土手に、小さな金平糖のような花が咲いていた。“なんてかわいい”と思わず声を出した。ミゾソバだった。小香の棚田でピンク色のミゾソバが咲いているのを見かけた時は、“ま～ここにも咲いている”と感激でした。ミゾソバにはそんな思い出があります。

ツクバトリカブト（筑波鳥兜）
キンポウゲ科 10月 ※三舟山
濃い青紫の花は雅楽を舞う時にかぶる鳥兜に見立てられるほどの美しい姿です。根も葉も強い毒をもっているので注意が必要です。

草花に優しく向き合う

写真撮影のモデルとなってくれる花たちには、原則として手を触れません。落ち葉が被さっていたら、そっと取り除く程度です。

しかし、葉の裏を観察したい時は裏返さないと見えないので、ちょっと失礼して葉をめくらせてもらいます。

こんな仕草でも、花にとってはストレスになっているかもしれませんね。

野花の写真を撮ることは自由ですが、採ることはご法度です。自然保護のルールをきっちり守り、「花への労わりの心」を持ち続け、皆で楽しみ育てる憩いの場にしていければと思います。

ヤマハッカ（山薄荷）
シソ科 10月 ※小香の棚田
秋には青紫色の花が多いです。アキノタムラソウもツリガネニンジンも青紫色をしています。ヤマハッカは唇の形をしたシソ科の花ですが、いつも思い通りにカメラに収まってくれません。撮るのが難しい花の一つです。

ノダケ（野竹）
セリ科 10月 ※三舟山

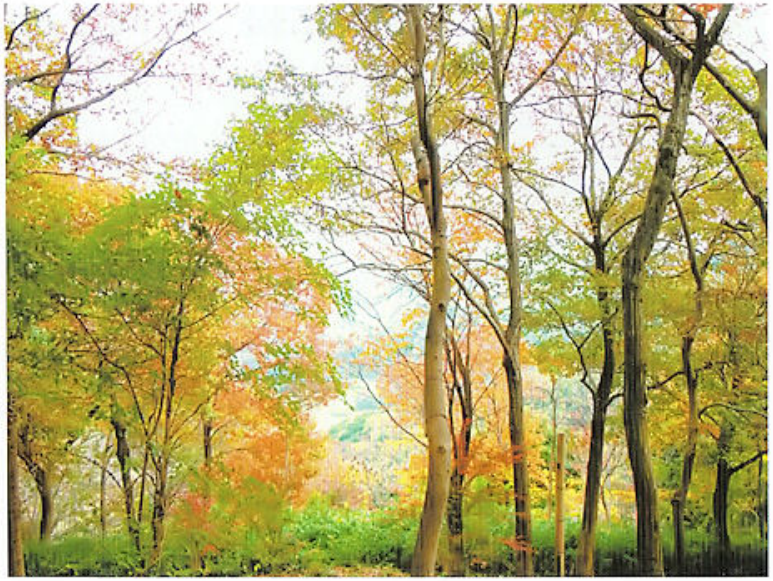
スズメウリ（雀瓜）
ウリ科 9月 ※小香の棚田

スズメウリ

棚田の山際で、笹やぶにからまってぶら下がっている白い球形のスズメウリを見つけました。白い小さな花で、花から実になる過程のものや、丸い実になったものが何個もぶら下がり、まるで理科の生きた教材を見ているようです。

里山を歩く

コウヤボウキ(高野箒)
キク科 10月 ※三舟山
マクロ画像で見ると、花弁がくるくるとカールして可愛い花です。



三舟山の紅葉

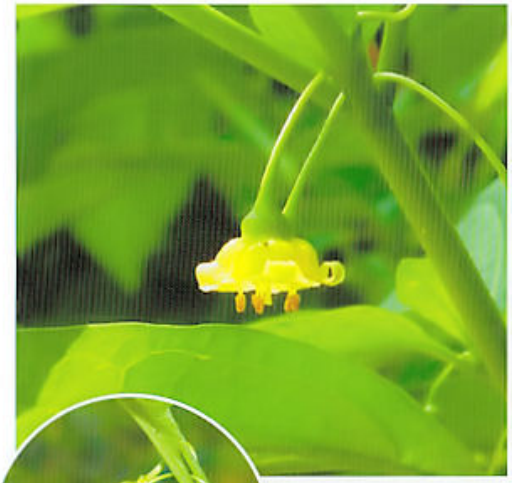
静寂のなか
余韻を連れて
行きあう人あり
挨拶交わす
“おはよう”
温もり感じつつ
爽やかに
流れるが如く

～人見庵～

オトコエシ(男郎花)
オミナエシ科 10月 ※三舟山

ヤクシソウ(薬師草)
キク科 10月 ※三舟山

オカダイコン(岡大根)
キク科 10月 ※三舟山



ハダカホオズキ
（裸酸漿）　ナス科
※人見・三舟山
花:9月
果実:10月

キツネノカミソリ（狐の剃刀）
ユリ科 ※小香

赤い実になる

夏の暑い日、撮影班で三舟山へ出かけた。

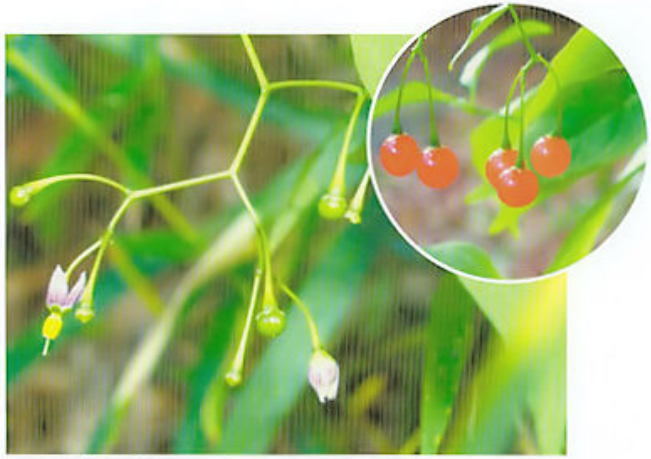
“キツネノカミソリが咲いている”との情報で、小香の小高い山へ登る。急坂を登り畑の中を通りぬけ、人が通らないような場所に一群のキツネノカミソリが咲いていた。その近くに紫色の花が咲いている。「マルバノホロシ」だった。

それからフウフウ言いながら山を下り、「三舟の里の案内所」に立ち寄ったがこれといった収穫はなかった。

人見神社へ“ハダカホオズキを見に行こう”ということになった。暑かったし、そろそろお腹も空いてきた。少しバテ気味の私は皆の後からやっとついていく。

登り口の手前に一抱えもある大きな株がある。よく見ると黄色の花が…。初めて見る「ハダカホオズキ」の花だ。夢中で写真を撮った。

ヒヨドリジョウゴは人見神社にはたくさん咲いていて、いつも写真を撮りに来ていた。ヒヨドリが好んで食べるという実ですが、人間だってこの花と実の魅力に参ってしまいます。



マルバノホロシ（丸葉の保呂之）
ナス科 ※三舟山
花:10月 果実:11月

ヒヨドリジョウゴ
（鵯上戸）　ナス科
※人見・三舟山
花:8月 果実:11月

野菊の仲間

「♪遠い山から吹いて来る
こ寒い風にゆれながら
気高くきよくにおう花
きれいな野菊
うすむらさきよ♪」　　唱歌より

田の畔や山裾に野菊を見かけるようになると、いよいよ秋が深まります。

映画にもなった伊藤左千夫の小説『野菊の墓』に登場する野菊は「カントウヨメナだろう」と言われています。野菊の種類はたくさんあり、興味がわくほど奥が深いことに気付かされます。でも、いつもとは少し違う花に出会うとワクワクします。

シロヨメナ（白嫁菜）
キク科　10月　※三舟山

シラヤマギク（白山菊）
キク科　9月　※三舟山

カントウヨメナ（関東嫁菜）
キク科　10月　※小香の棚田

キヨスミギク（清澄菊）
キク科　11月　※三舟山

リュウノウギク（竜脳菊）
キク科　10月　※三舟山

秋から冬へ

サラシナショウマ（晒菜升麻）
キンポウゲ科 11月 ※三舟山

白い小さな花を密生させたサラシナショウマ、風に揺れている姿はおしとやかでしなやかさをアピールしています。一輪だけ気品良くすまし顔で咲いているのはキッコウハグマです。そして、ベニバナボロギクは朱色と白色のコンビネーションの花を下向きにつけ、綿毛になって遠くの地へ飛んで行ける日をじっと待っています。秋には秋の花が咲き、通りかかる人にその姿を愛でてもらうのが、花にとっても最高の幸せかもしれません。

センブリ（千振）
リンドウ科 11月 ※三舟山
ドクダミやゲンノショウコとあわせて三大民間薬と言われます。

ベニバナボロギク（紅花襤褸菊）
キク科 11月 ※三舟山

キッコウハグマ（亀甲白熊）
キク科 11月 ※三舟山
葉が亀の甲らとよく似ていることからこの名前が付きました。

コシオガマ（小塩竈）
ゴマノハグサ科 10月 ※三舟山
やさしいピンク色で、ちょっと悩ましげに閉じたくちびるみたい。こんなルージュがほしいと思わせるお色気を感じます。

ツチグリ（土栗）
ツチグリ科 11月 ※三舟山

ツチグリを見つけた

“まぁ～、何でしょう”。“UFOみたい”。“宇宙人でも出てくるのかしら”

土手に張り付いた星の形をした不思な物をみつけ、みんなでかわるがわる顔を地面に近づけ、観察しました。何かの木の実が落ちた様にも見えます。

これを記録に残さない手はない。里山観察員全員一致。それ～～とばかり、デジカメでパチパチ。ツチグリ科のキノコだと、あとで分かりました。未知との遭遇は観察員が最も興味がわいた被写体でした。

ムラサキシキブ
（紫式部）
クマツヅラ科
10月 ※三舟山

花：7月

サルトリイバラ（猿捕茨）別名 山帰来
ユリ科 1月 ※坂田・三舟山

花：4月

タンキリマメ（痰切豆）
マメ科 12月 ※坂田・三舟山
さやがはじける頃は、さやの赤と豆の黒との対比が見事です。

花：8月

冬の訪れ

房総の紅葉は遅く12月初めが見頃で、名残惜しむ間もなく季節は巡り、三舟山も小香の棚田も冬支度に入ります。

やがて、容赦なく吹きつける木枯らしに、木々は一枚、また一枚と葉を落とし、落葉の季節を迎えます。枯葉舞う谷の様子も風情があっていいです。

北風が吹き気温が下がった寒い朝などに棚田を訪れると、田の畔道や畑の草に霜が降り、薄氷の芸術が観察できます。自然の造形美、天然の贈り物です。

棚田は、秋の名残を惜しむ芒の穂が銀色に揺れます。野花や生き物たちで華やいだ日々の喧騒に一時の別れ。温暖のこの地にも、滅多にお目にかかれない大雪の年がありました。雪また、楽し。

チカラシバ(力芝)　イネ科 9月 ※全域

小香の棚田のススキ

三舟山　山頂の雪景色

索　引

	名　前	頁
ア	アオツヅラフジ	45
	アカネスミレ	52
	アカバナ	61
	アカバナユウゲショウ	29
	アキノタムラソウ	63
	アキノノゲシ	44
	アケビ	18
	アゼムシロ	60
	アメリカアゼナ	68
	アメリカイヌホオズキ	36
	アメリカセンダングサ	36
	アメリカタカサブロウ	64
	アメリカフウロ	22
	アリアケスミレ	8
	アレチハナガサ	36
イ	イカリソウ	55
	イシミカワ	45
	イチヤクソウ	58
	イヌガラシ	68
	イヌタデ	43
	イヌノフグリ	4
	イヌホオズキ	36
	イボクサ	69
ウ	ウグイスカグラ	18
	ウサギアオイ	22
	ウシハコベ	9
	ウスアカカタバミ	24
	ウスゲチョウジタデ	62
	ウスジロノゲシ	13
	ウツギ	17
	ウマノミツバ	60
	ウメ	2
	ウラシマソウ	5
	ウリクサ	64
	ウワミズザクラ	51
エ	エノシマキブシ	49

	名　前	頁
エ	エビヅル	45
	エビネ	55
オ	オオイヌタデ	43
	オオイヌノフグリ	4
	オオジシバリ	16
	オオシマザクラ	50
	オオバウマノスズクサ	58
	オオバノトンボソウ	60
	オカダイコン	71
	オカタイトゴメ	25
	オカタツナミソウ	57
	オカトラノオ	31,59
	オシロイバナ	29
	オトコエシ	71
	オドリコソウ	15
	オニタビラコ	13
	オニノゲシ	13
	オミナエシ	41
	オモダカ	62
	オヤブジラミ	12
	オランダミミナグサ	11
カ	ガガブタ	32
	カキドオシ	11
	カタバミ	24
	ガマ	33
	カラスウリ	35
	カラスノエンドウ	14
	カラスビシャク	34
	カリガネソウ	65
	カントウタンポポ	12
	カントウヨメナ	73
キ	キキョウ	41
	キキョウソウ	27
	キクモ	62
	キジムシロ	54
	キショウブ	24

	名　前	頁
キ	キッコウハグマ	74
	キツネアザミ	58
	キツネノカミソリ	72
	キツネノマゴ	44
	キバナノマツバニンジン	31
	キュウリグサ	10
	キヨスミギク	73
	キランソウ	7
	キンポウゲ	16
	キンミズヒキ	69
	キンラン	57
	ギンラン	57
ク	クコ	38
	クサイチゴ	54
	クサギ	38
	クサネム	42
	クサノオウ	15
	クサボケ	17
	クズ	41
	クルマバナ	64
	クロモジ	49
ケ	ケキツネノボタン	16
	ケムラサキニガナ	61
	ゲンノショウコ	44
コ	コアカソ	62
	コウゾリナ	28
	コウヤボウキ	71
	コオニタビラコ	13
	コゴメウツギ	17
	コシオガマ	74
	コスミレ	8
	コセンダングサ	36
	コナギ	66
	コナスビ	27
	コハコベ	9
	コバンソウ	26

	名　前	頁
コ	コマツナギ	61
	コマツヨイグサ	38
	コモチマンネングサ	25
サ	サラシナショウマ	74
	サルトリイバラ	75
シ	シモツケ	59
	シュンラン	55
	ショカツサイ	21
	シラヤマギク	73
	シロツメクサ	19
	シロバナサクラタデ	43
	シロバナタンポポ	12
	シロバナツユクサ	40
	シロバナマンテマ	23
	ジロボウエンゴサク	5
	シロヨメナ	73
	シンテッポウユリ	37
ス	スイカズラ	28
	ススキ	41
	スズメウリ	70
	スズメノエンドウ	14
	スミレ	8
セ	セイヨウタンポポ	12
	センニンソウ	37
	センブリ	74
ソ	ソクズ	34
	ソメイヨシノ	6
タ	ダイコンソウ	63
	タカサゴユリ	37
	タカトウダイ	60
	タガラシ	16
	タシロラン	60
	タチイヌノフグリ	4
	タチツボスミレ	8,52
	タマアジサイ	61
	タンキリマメ	75

索　　引

	名　　前	頁
チ	チガヤ	28
	チカラシバ	76
	チダケサシ	59
	チチコグサ	19
ツ	ツクシ	3
	ツクバキンモンソウ	7
	ツクバトリカブト	70
	ツチグリ	75
	ツボスミレ	52
	ツメクサ	9
	ツユクサ	40
	ツリガネニンジン	68
	ツリフネソウ	66
	ツルカノコソウ	53
	ツルニンジン	65
	ツルボ	40
	ツルマメ	42
	ツルマンネングサ	25
ト	トウダイグサ	22
	トキワツユクサ	27
	トキワハゼ	56
	ドクダミ	30
	トネアザミ	69
ナ	ナガバハエドクソウ	60
	ナガミヒナゲシ	20
	ナズナ	10
	ナツグミ	18
	ナツトウダイ	53
	ナデシコ	41
	ナルコユリ	56
	ナワシロイチゴ	24
	ナンテンハギ	66
	ナンバンギセル	40
ニ	ニオイタチツボスミレ	52
	ニガナ	11
	ニリンソウ	11

	名　　前	頁
ニ	ニワゼキショウ	26
ヌ	ヌスビトハギ	63
ネ	ネジバナ	30
	ネバリノミノツヅリ	9
	ネムノキ	31
ノ	ノアザミ	58
	ノイバラ	24
	ノゲシ	13
	ノダケ	70
	ノヂシャ	22
	ノビル	30
	ノブドウ	45
	ノボロギク	16
	ノミノフスマ	9
ハ	ハキダメギク	44
	ハギ	41
	ハコネニシキウツギ	28
	ハコベホオズキ	20
	ハゴロモモ	32
	ハゼラン	29
	ハダカホオズキ	72
	ハタケニラ	28
	ハナイバナ	10
	ハナハマセンブリ	31
	ハナヤエムグラ	25
	ハハコグサ	19
	ハマコウゾリナ	34
	ハマダイコン	21
	ハリエンジュ	18
	ハルジオン	22
	ハンゲショウ	33
ヒ	ヒガンバナ	39
	ヒガンマムシグサ	5
	ヒシ	32
	ヒトリシズカ	48
	ヒナギキョウ	57

	名　　前	頁
ヒ	ヒメウズ	10
	ヒメオドリコソウ	3
	ヒメガマ	33
	ヒメコバンソウ	26
	ヒメジョオン	34
	ヒメハギ	7
	ヒメヒオウギズイセン	34
	ヒメマツバボタン	34
	ヒヨドリジョウゴ	72
	ヒヨドリバナ	61
	ヒルガオ	29
	ヒルザキツキミソウ	29
フ	フキノトウ	3
	フジ	23
	フジバカマ	41
	ブタナ	27
	フデリンドウ	48
	フラサバソウ	4
ヘ	ヘクソカズラ	35
	ベニバナボロギク	74
	ヘビイチゴ	54
	ヘラオオバコ	26
ホ	ホウチャクソウ	56
	ホタルカズラ	53
	ホタルブクロ	30
	ボタンヅル	37
	ホトケノザ	3
	ホトトギス	68
マ	マツバウンラン	20
	マツヨイグサ	38
	マメアサガオ	39
	マメカミツレ	20
	マメグンバイナズナ	10
	マメザクラ	51
	マルバノホロシ	72
	マンテマ	23

	名　　前	頁
ミ	ミズオオバコ	64
	ミズヒキ	44
	ミゾソバ	69
	ミソハギ	63
	ミツバアケビ	18
	ミツバツチグリ	54
	ミミナグサ	53
ム	ムシクサ	25
	ムラサキカタバミ	24
	ムラサキケマン	5
	ムラサキシキブ	75
	ムラサキツメクサ	19
メ	メキシコマンネングサ	25
	メマツヨイグサ	38
モ	モミジイチゴ	49
ヤ	ヤクシソウ	71
	ヤセウツボ	14
	ヤナギタデ	43
	ヤハズソウ	39
	ヤブカンゾウ	59
	ヤブツルアズキ	42
	ヤブヘビイチゴ	54
	ヤブマメ	42
	ヤブレガサ	48
	ヤマザクラ	50
	ヤマハッカ	70
	ヤマユリ	59
ヨ	ヨウシュヤマゴボウ	35
リ	リュウノウギク	73
レ	レンゲソウ	56
ワ	ワルナスビ	36
	ワレモコウ	68

※「ゲンゲ」は、レンゲソウの頁を参照。
※「カスマグサ」は、14頁を参照。
※「スギナ」は、ツクシの頁を参照

君津市

千葉県

～凡例：緑　君津市～

君津市
マスコットキャラクター
きみぴょん

人口約９万人で、房総半島の中南部に位置しています。

臨海部には工業地帯や市街地がありますが、市域のおよそ３分の２は森林が占め、貴重な動植物が生息・生育し、房総半島を代表する自然の宝庫です。

周西・三舟地域図

～凡例：赤枠（周西の地域）　緑枠（三舟の地域）～

※出典：国土交通省国土地理院

あ と が き

『君津市史（自然編）』（以後、自然編）には、市内に生育する植物を調査、記録した資料が記載されています。分類されているなかの、植物名（草）を見ると、花の現況が「普通」「少ない」「稀」「逸出」などで評価され、分布域も「全域」、「清和」など地名が表記されています。花の種類によっては、旧君津（旧君津町）と特記されたものもあり、植物の地域史を調べるための参考資料となりました。

自然編によると、旧君津地域で「少ない」あるいは「稀」と評価されている品種は１０数点あります。たとえば、ジュンサイやタンキリマメも「稀」の部類で、市街地に生育する希少種であることが分かりました。「少ない」の部類には、メキシコマンネングサやマメグンバイナズナの記述があります。外来植物、又は帰化植物であるこれ等をどのように評価していくかは今後の課題です。

都市化が進むこの地域で、野の花たちは残された環境に順応しつつ精一杯生きています。生命の営みの素晴らしさを感じると共に、残していかなければならない自然環境が、私たちのすぐ傍に沢山あることを学びました。“昔は、どこにでも咲いていた”この言葉を死語にしなければなりません。年々増加傾向にある三舟山を散策する人たちは、「山野草は、そこにあってこその命である！」ことを自覚し、自然環境の保全・保護の実践に努めるべきであることを強く主張したい。

一方、周西公民館は、毎年地域再発見を主催事業に取上げ地域の歴史・文化を｛見て・歩き・学ぶ｝をテーマに実施しています。三舟山周辺域が整備されウォーキングロードとして活性化したように『花紀行』、『ガイドマップ』が健康ウォーキングの一助として活用されることを願うことは勿論、副読本的な資料として運用して頂ければと思います。と同時に、いま、地域に対して「何を為すべきか。何が出来るのか」を生涯学習の理念として個々人に問いかけたい。この意識が今後の地域活性化の一助となり、スパイラルアップして一人でも多くの人が、自分のテーマを探し「地域づくり、きっかけづくり」になることを期待します。

末尾ではありますが、本事業に関してご理解、ご支援、ご協力頂きました行政はじめ地域の有識者、関係各位に衷心より感謝と御礼を申し上げます。

○『周西・三舟 花紀行』～付録 周西地域ガイドマップ～
企画事業「リレー写真展示会」監修・編集・協力者

編集　周西マップクラブ

会員・顧問　元岡陸視　姫野重信　礒島　豊　服部喜光
大石明子　木村晴美　倉内加代子　鳥居正寛
林世地子　神田みわ子　佐々木千恵子
廣澤百合子　福山友子　大島良美
編集責任者　元岡陸視

『周西・三舟 花紀行』

監修　千葉県立中央博物館植物学研究科
主任上席研究員　天野　誠
編集協力（資料提供含む・協力施設など）
川名　興　玉川信也　坂井　昭　牧野　正
君津市役所　君津市周西公民館

～付録 周西地域ガイドマップ～

監修　元君津市史編さん室局員　色部昭男
編集協力　秋元賢司　諏訪好紹　栗坂昭道　齋藤貞夫
守　吉男　小沢　洋

企画事業「リレー写真展示」

写真提供　新日鐵住金株式会社 君津製鉄所
君津市漁業資料館　石渡金衛門　渡辺忠純
高瀬一利　金吉英一　水越賢次
君津市立周西小学校

○参考・引用文献

書　籍　名	発行・発刊	出版・製作	編・著者
・千葉県の自然誌　別編４ 千葉県植物誌	2003.3	千葉県	大場達之
・改訂新版千葉県植物 ハンドブック	2010.10	たけしま出版	千葉県生物学会 村田威夫
・千葉県メッシュマップ ハンドブック	1990.2	古今書院	千葉県立 中央博物館
・君津市史(自然編)	2001.9	千葉県君津市	千葉県君津市
・原色牧野植物大図鑑	2001.1	北隆館	牧野富太郎
・君津の自然	2008.10	うらべ書房	鈴木欣也 藤平量郎 吉原　洋
・南房総自然ガイド	1999.10	うらべ書房	吉原　洋 藤平量郎 山井　広
・日本の野草	2009.11	山と渓谷社	林　弥栄
・野の植物誌	2000.8	山と渓谷社	大場達之
・四季の野の花図鑑	2008.4	技術評論社	いがりまさし
・フィールド検索図鑑春の花	1995.12	北隆館	福田元次郎
・野草の名前　春	2002.4	山と渓谷社	高橋勝雄
・野草の名前　夏	2003.4	山と渓谷社	高橋勝雄
・野草の名前　秋冬	2002.11	山と渓谷社	高橋勝雄
・身近な野草　雑草	2010.4	主婦の友社	菱山忠三郎
・野の花	1999.4	山と渓谷社	木原　浩
・山の花	1999.4	山と渓谷社	木原　浩
・道端植物図鑑	2002.5	平凡社	大場秀章
・日本帰化植物写真図鑑	2001.7	全国農村教育協会	清水矩宏 森田弘彦 廣田伸七
・日本の野草　夏秋	2009.7	(株)文一総合出版	鈴木庸夫

『周西・三舟 花紀行』発刊　協賛者一覧

～付録 周西地域マップ てっくてっく健康ウオーク～

「総合力世界ＮＯ１の鉄鋼メーカーへ」
「頂点を目指す」
「将来への大きな可能性」

NIPPON STEEL &
SUMITOMO METAL

新日鐵住金株式会社
君津製鐵所

株式会社新昭和
SHINSHOWA
〒299-1144 千葉県君津市東坂田4-3-3 TEL.0439-54-7711(代) FAX.0439-55-6229

業務用食品・治療用食品（腎臓病・糖尿病・高齢者介護用）
株式会社富士食品
本　社 君津市坂田272 ☎(0439)52-2421(代)
千葉支店 千葉市中央区南町3丁目 ☎(043)265-2231

ご婚礼・大小ご宴会・宿泊・レストラン
君津駅前
ホテル千成
TEL.0439-52-8511(代)
FAX.0439-52-6600

全国へお花をお届けします
秋香園
本　店 0439-52-0311

西君津からはじまる
あなたの健康づくり
～忙しい日常にゆとりと運動を～
財団法人 体力つくり指導協会
君津メディカルスポーツセンター

リハビリテーションのスペシャリスト
理学療法士・作業療法士
を養成します。
学校法人君津あすなろ学園
千葉医療福祉専門学校
君津市上湯江１０１９
TEL ０４３９－５５－４００１（代）

『周西・三舟 花紀行』の発刊にあたり、皆様方の格別なるご芳情に感謝申し上げます。　　周西マップクラブ　一同

周西・三舟
花紀行

～付録：周西地域ガイドマップ～

編纂　周西マップクラブ
電話　0439-52-6537

周西・三舟 花紀行　　（監修　天野　誠）
付録 周西地域ガイドマップ（監修　色部昭男）

平成24年10月23日

印刷　（有）京葉印刷
千葉県木更津市江川359-2
電話　0438-41-8625